

IDDOT kagoshima

[SPECIAL]

2023 07



未来へ
く作業療法の創造と融合の可能性
く

プログラム・学会誌

九州作業療法学会2023 in 鹿児島

会期 2023年7月8日土・9日日

学会長 吉満 孝二 鹿児島大学

会場 かごしま県民交流センター

主催 九州作業療法士会会長会

IDDOT kagoshima

[SYMPOSIUM]

2023 07



九州作業療法学会2023 in 鹿児島

未来へ ～作業療法の創造と融合の可能性～

プログラム・学会誌

会期 2023年7月8日(土)・9日(日)

会場 かごしま県民交流センター

学会長 吉満 孝二 鹿児島大学

主催 九州作業療法士会会長会

九州作業療法学会2023 in 鹿児島 事務局

一般社団法人 鹿児島県作業療法士協会

〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-13 ナポリビル4階

TEL/FAX: 099-225-8222

E-mail: kyuot2023@gmail.com

<https://kyuot2023.secand.net/>

INDEX

学会長挨拶	1
会場アクセス	2
会場案内	3
参加者の皆さまへ	5
座長の皆さまへ	7
発表者の皆さまへ	8
優秀演題の表彰について	11
日 程 表	12
プログラム	14
抄 録	
学会長講演	18
教育講演1～3	20
シンポジウム1・2	26
座談会1・2	38
専門職講演	42
九州作業療法士会会長会 MTDLP 推進委員会企画	44
九州作業療法士会会長会 リーダー養成研修会	46
一般演題プログラム	49
組 織 図	58
いっどマルシェ出店者一覧	60
機器展示一覧	61
後援団体一覧	62
ロゴ作成者	63
編集後記	64

学会長挨拶

ご挨拶

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島

学会長 吉満 孝二

(鹿児島大学 医学部 保健学科)



謹啓 皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より九州各県作業療法士(協)会の活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。ごぞいます。

この度、私たちは2023年7月8日(土)から9日(日)の二日間、かごしま県民交流センターにて「九州作業療法学会2023 in 鹿児島」を開催いたします。本学会は、昨年度まで新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインのみの開催となっておりましたが、学術集会本来の活気と交流の楽しみを取り戻したいとの願いを込めて、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施することとなりました。

今回の学会のテーマは「未来へ～作業療法の創造と融合の可能性～」です。近年多発する自然災害や未知の感染症の中でも継続的な医療と介護を提供するために、私たちは新たな視点から作業療法の可能性を追求し、多職種との連携や新しいテクノロジーの導入など、異分野との融合を図るべく努力しています。

そのために、この学会では演題発表を通じて作業療法士の日々の臨床や研究の成果を共有するのはもちろん、過去例のない取り組みとして 1) アートブリュット*に造詣深い美術館館長、障がいを負いながらも YouTube で大活躍する当事者、新進気鋭の福祉業界のリーダー他、異分野のユニークな講師の招聘、2) 福祉事業所による賑やかなマルシェ、3) 車いすスペース設置や字幕付き講演による学会のバリアフリー化、4) 聴講者のオンライン投票による最優秀演題決定、5) 自由な情報発信の機会である OT 瓦版、6) 高齢者福祉分野で期待される介護ロボットの体験ツアー、7) 障がい者福祉分野で注目を集める e-スポーツ体験会を実施します。

私たちは、多くのプログラムを他職種、県民、障がいのある皆さまに広く公開することで、作業療法士の取り組みや作業療法の未来を紹介し、地域社会に貢献することを目指しています。

皆様のご理解とご支援を賜り、多くの方々にご参加いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

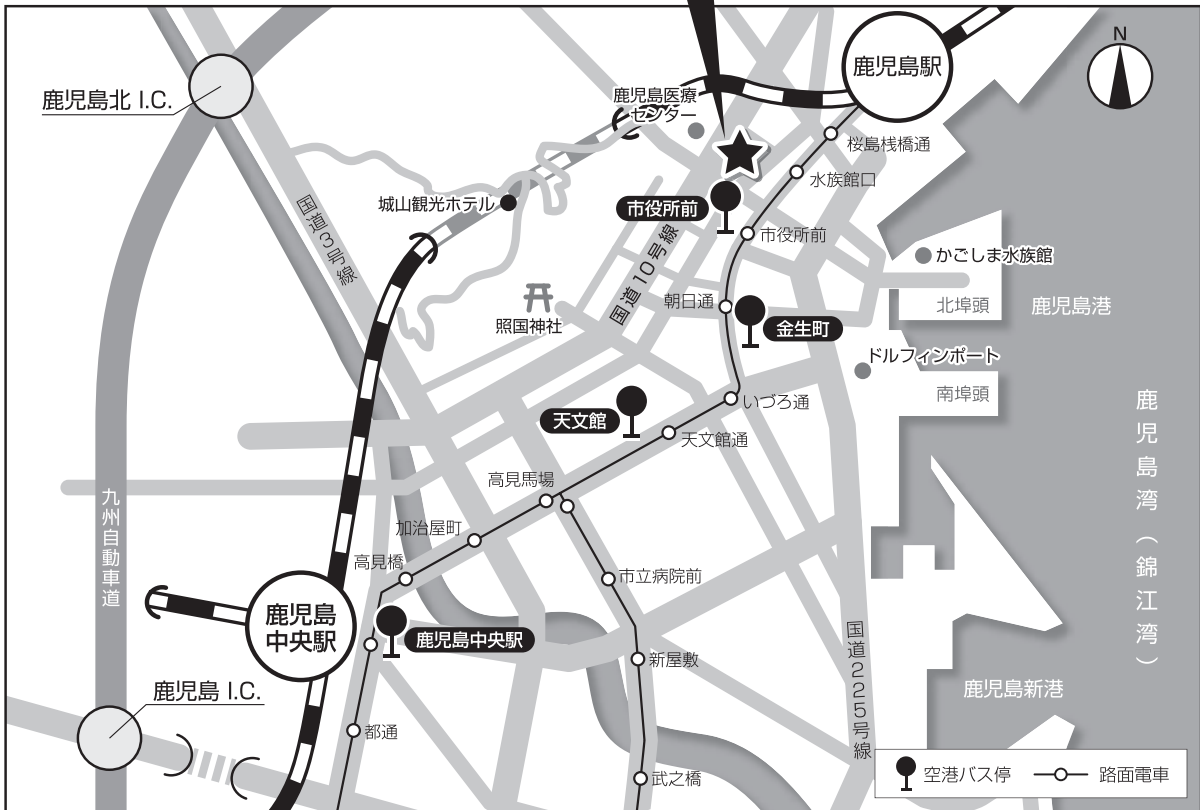
敬具

*精神障害者や子ども、自己教育の芸術家など、伝統的な芸術教育を受けていない人々が制作した作品を指す。

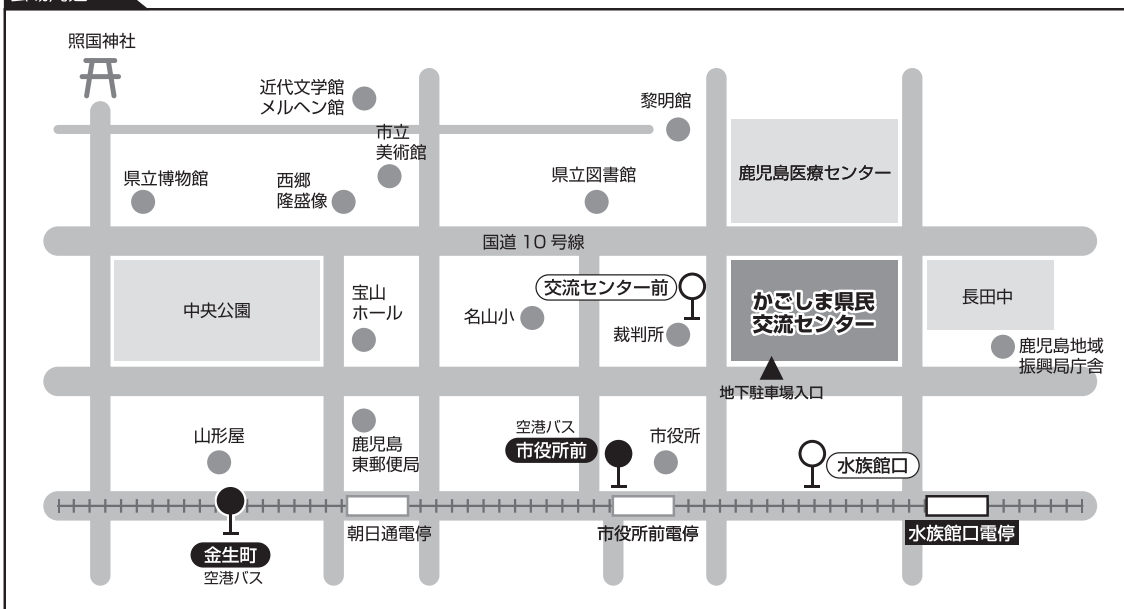
会場アクセス

周辺 MAP

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島 会場 かごしま県民交流センター



会場周辺



● 駐車場

● 地下 (1・2階) 約 500 台

料金：30分 150円 (※交流センター利用者は2時間まで無料です。受付にて認証処理を行なって下さい。)

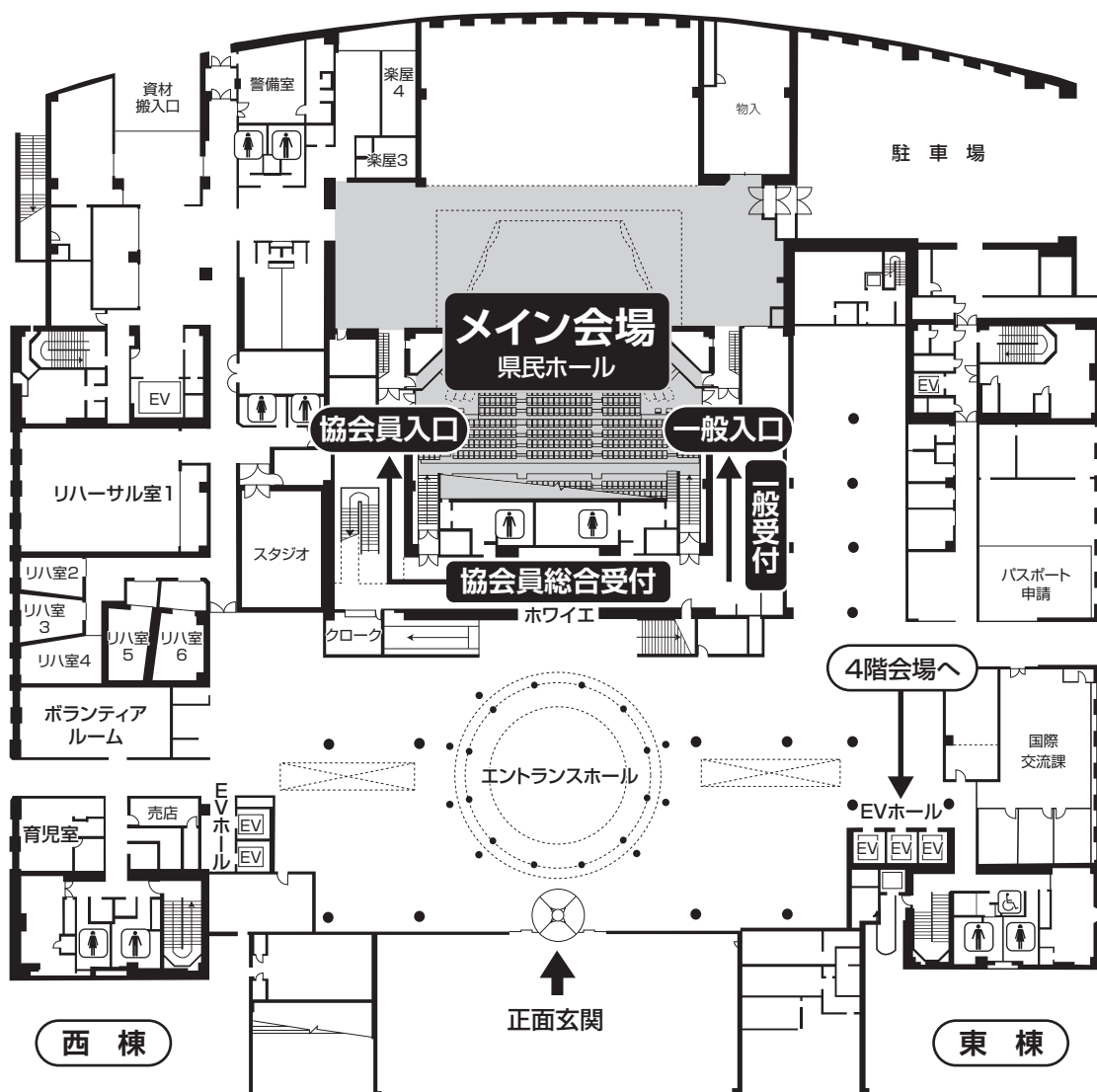
※学会当日の駐車場は混雑が予想されます。公共交通機関または会場近くのコインパーキング等をご利用ください。

会場案内

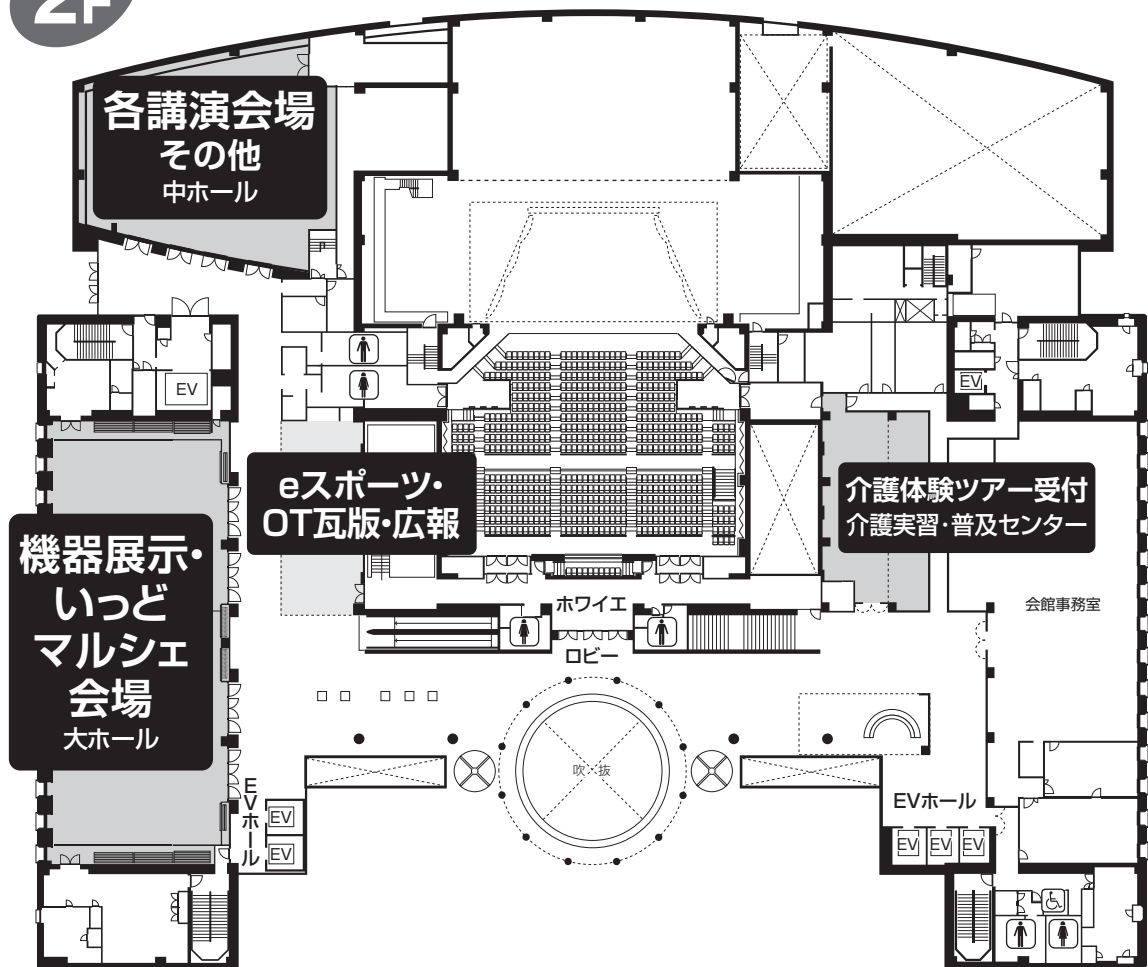
※飲食・休憩スペースは大ホール、東棟3階大研修室3になります。

エントランスホールでも飲食可能ですが、他の利用者への配慮をお願いいたします。

1F



2F

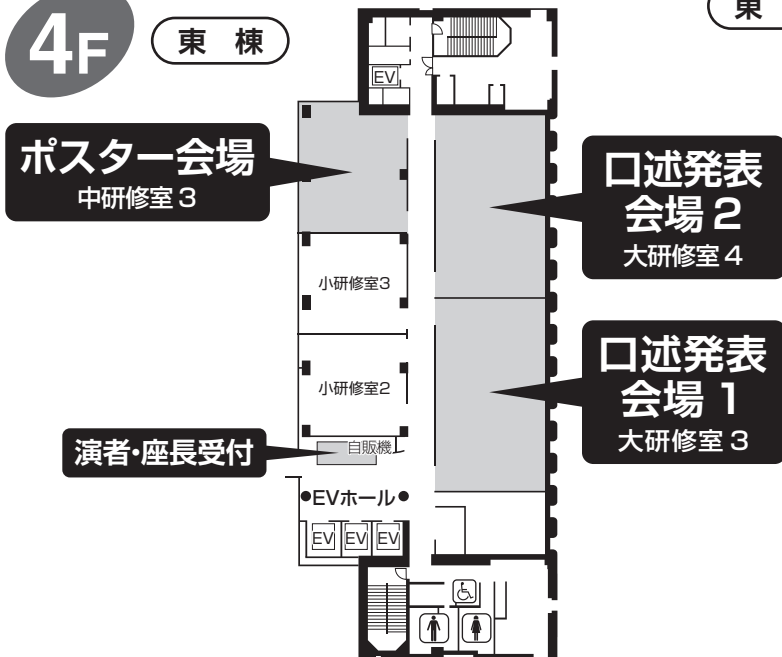


西棟

東棟

4F

東棟



参加者の皆さまへ

1. 学会参加費について

(1) 作業療法士 (○：加入、×：未加入)

都道府県士会	日本 OT 協会	参加受付		金 額	
				両日参加	1日参加
○	○	事前登録	九州圏内	6,000円	3,000円
			九州圏外	7,000円	
		当日	九州圏内	7,000円	4,000円
			九州圏外	8,000円	
×	○	事前登録	九州圏内	12,000円	
			九州圏外		
		当日	九州圏内	12,000円	
			九州圏外		
○	×	事前登録	九州圏内	6,000円	3,000円
			九州圏外	7,000円	
		当日	九州圏内	7,000円	4,000円
			九州圏外	8,000円	
×	×	事前登録	九州圏内	20,000円	
			九州圏外		
		当日	九州圏内	20,000円	
			九州圏外		

(2) 他職種等の参加費

	参加受付	金 額
		両日参加
他職種	事前登録	7,000円
	当日	7,000円
一 般	事前登録	7,000円
	当日	7,000円
学 生	事前登録	1,000円
	当日	1,000円
他職種・一般 選択聴講	当日のみ (1講演)	1,000円

※学生は OT 養成コース所属の方のみとします。免許取得者の学生(学部生・大学院生)の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。

※オンラインでの参加受付は、事前登録のみとなります。

※他職種・一般の選択聴講は、教育講演、座談会、シンポジウム、専門職講演が対象となります(学会長講演は無料)。

2. 学会参加受付期間について

学会参加事前登録は：6月1日(木)～7月3日(月)正午まで
(※参加費の入金は7月4日(火)正午まで)

3. お問い合わせ先

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島 大会事務局までお問い合わせください。

座長の皆さまへ

【事前の準備】

7月3日(月)正午までに、学会ホームページよりオンライン参加登録を済ませてください。
事前に学会誌を配布します。学会誌および学会ホームページで発表セッションと時間をご確認ください。

【当日の発表について】

- 1) 1階メインエントランスホールにて参加受付を済ませた後に、担当セッション開始時刻1時間前までに4階東棟のエントランス(エレベーター前フロア)で座長受付を行ってください。
- 2) 開始時刻10分前までには、担当される会場の座長席の近くにお座りになってお待ち下さい。
- 3) 演題発表時間は7分、質疑応答時間は3分です。発表終了1分前と終了時に合図をします。
- 4) 担当セッションの進行については、全て座長に一任いたします。プログラムの進行にご配慮と円滑な進行となりますようよろしくお願いいたします。
- 5) 本学会は、Web会議アプリ「Zoom」を使用したオンライン配信による参加者の聴講も行います。質疑応答の際は、オンライン配信への対応もよろしくお願いいたします。
- 6) 聴講者より質問が出ない場合は、座長より質問をしていただくなどご高配を賜りますようよろしくお願いいたします。

発表者の皆さまへ

【事前の準備】

7月3日(月)正午までに、学会 HP よりオンライン参加登録を済ませて下さい。

事前に学会誌を配布します。学会誌および学会ホームページで発表セッションと時間をご確認ください。

【発表者受付について】

1階メインエントランスホールにて参加受付を済ませた後に、担当セッション開始時刻1時間前までに4階東棟のエントランス(エレベーター前フロア)で発表者受付を行ってください。

【利益相反の開示】

当学会では、演題発表時に演題発表に関連する企業等とのCOIの有無および状態について申告することを以下に義務づけます。発表時に利益相反の有無についても述べてください。

〈学会発表における利益相反の掲示方法〉

口述発表(および優秀演題発表)は演題名の次(2枚目)のスライドで開示すること。

ポスター発表はポスターの最下部に開示すること(ポスターレイアウトを参照)。

利益相反のスライド見本につきましては、HPよりダウンロードしてください。

【演題内容に関わる倫理的事項について】

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省。令和4年3月10日一部改正)などを遵守し、発表の際に倫理的配慮が必要な場合は口頭で述べてください。

【口述発表(および優秀演題発表)】

1. 口述発表の環境・手続きについて

1) 映写面は各会場ともに1面です。

2) 会場で用意しているパソコンを使用し、スライドを映写して発表となります。ご自身のPCの持ち込みはできません。

発表はPCプレゼンテーション(OS:Windows、ソフトウェア:Microsoft Office PowerPoint 2011以降のバージョン)のみとします。

こちらで準備しているパソコンのOSはWindowsのみです。Macでスライドを作成する場合は、Windowsで正しく稼動することを事前に確認をしておいてください。発表時に不具合が生じた場合、運営側での責任は負いかねますので、ご了承ください。

3) スライドサイズは、標準(16:9)設定にしてください。

- 4) 発表用スライドは、USB メモリにデータを保存し、当日に受付へ提出してください(トラブルに備えてバックアップデータもご持参ください)。

発表データの保存ファイル名は、「演題番号-氏名-所属」としてください。

(例：O18-九州花男-〇〇病院)

発表用スライドを保存している USB は、必ずウイルス対策ソフトにてチェックを行ったものをご提出ください。

受付横に PC を準備しますので、各自で動作確認をお願いします。

発表用データは、会場内の PC にコピーさせていただきますが、学会終了後に責任を持って消去します。

- 5) アニメーションや動画を用いた発表も可能です。使用は MPEG3, MPEG4, WMV のみとします。ただし、発表時に不具合が生じた場合、運営側での責任は負いかねますので、ご了承ください。

- 6) フォントは OS 標準※のみご使用ください。

※ MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Arial, Arial Black, Century, Century Gothic, Times New Roman

- 7) 発表時のレーザーポインターは使用できません。マウスによるポインターをご使用ください。

- 8) 発表時は発表者ツールを使うことはできません。

2. 発表の流れについて

- 1) 発表するセッションの10分前には「次演者席」に着席してください。

発表および質疑応答は座長の指示に従ってください。

- 2) 演題発表時間は7分、質疑応答時間は3分です。発表終了1分前と終了時に合図をします。時間遵守をお願いします。

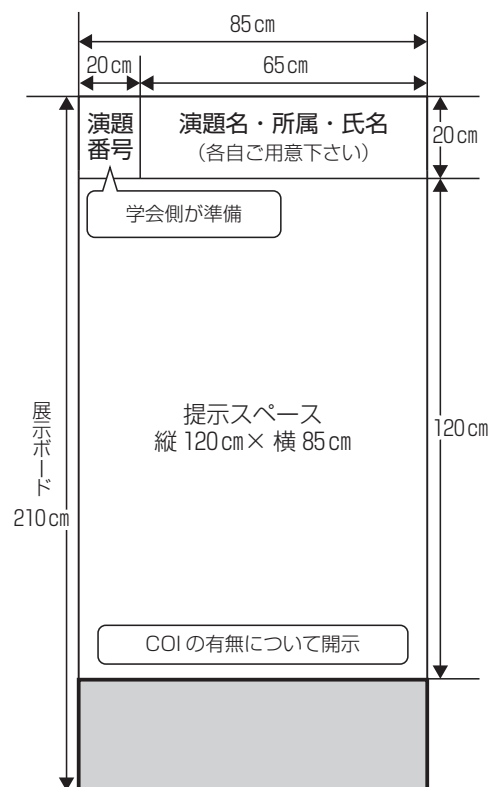
- 3) 発表は、舞台上にセットされているモニター、キーボード、マウスを使用してご自身で操作してください。

- 4) 優秀演題発表は発表時間10分で、質疑応答はございません。

【ポスター発表】

1. ポスターの作成(フォーム)について

ポスターの示説スペースは、縦120cm、横85cm内です。図を参考にして、各自で演題名・所属・氏名(縦20cm、横65cm)を作成してください。ポスターの本文(図表・写真含む)は、文字サイズ・フォントの種類、図表・写真の枚数は特に定めませんが、必ず指定のスペースに収まるように作成してください。



2. ポスター掲示について

1) 学会では以下のものをご用意いたしますので、各自でポスターの掲示をお願いします。

- 掲示パネル
- 演題番号：掲示パネルの左上部に演題番号を取り付け表示します。
- 画鋏：ポスターを貼り付けるための画鋏・ピンをご用意いたします。
- 写真撮影可否シール：演題番号下部に貼り付けてください。

2) ポスターの貼り付けは下記の時間内に各自でお願いします。

7月8日(土)9:30～10:20

ポスターの撤去は下記の時間内に各自でお願いします。指定時間以降も掲示されているポスターは、学会運営局にて処分いたします。

7月8日(土)17:00～18:00

3. 発表の流れについて

- 1) 発表者は担当セッション開始10分前までに各自のポスター前に待機してください。
- 2) 今回の発表は、指定された時間内にポスターの前に立ち、参加者と自由にディスカッションしていただく形式となります。
- 3) 発表者は当該セッションの時間中、ポスター前から離れないようにしてください。

【発表ポイント】

筆頭演者は2ポイントの生涯教育基礎研修ポイントが付与されます。認定作業療法士の方は、更新要件の実践報告(25np)として登録できます。

演題採択後、①2023年度の九州各県士会会費の納入、②学会への参加申込みおよび学会参加費の支払い、③発表をもって、本学会でのポイント付与とします。

【代理発表について】

原則、筆頭演者の変更は認めません。不測の事態により筆頭演者が発表できない場合は、共同演者が代理での発表ができるように準備をお願いします。この場合は、共同演者による代理発表として取り扱います。

代理発表ができない場合は演題を取り下げさせていただきます。

【演題に関するお問い合わせ】

その他、演題に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

九州作業療法学会 2023in 鹿児島

学術部査読部 持永博幸

kyuotendai2023@gmail.com

優秀演題の表彰について

【審査対象】

本学会で採択された全ての演題を対象としました。

【審査方法】

一定の基準に基づいて学会準備委員会(学会長と学会学術委員)で厳正なる審査を行い、各県1演題、計8演題を優秀演題発表として決定いたしました。

最優秀演題について

【最優秀表彰審査基準】

1. テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
2. 作業療法の目的が適切であり、その目的が論理的プロセスを踏んで達成されている。
3. 他の参加者が聞いて有効な発表内容である。
4. 構成や表現などが優れている。

優秀演題の中から、当日の発表内容、上記1～4の審査基準などを加味し、会場・オンラインの聴講者によるWEB投票で「最優秀演題」を決定します。

発表・表彰

優秀演題受賞者および最優秀演題受賞者の表彰は閉会式で行います。

日程表

1日目 2023年7月8日(土) かごしま県民交流センター

	1-2階	2階	4階			2階		
	メイン会場 県民ホール	各講演会場 中ホール	口述発表会場1 大研修室3	口述発表会場2 大研修室4	ポスター会場 中研修室3	機器展示 マルシェ 大ホール	eスポーツ OT・広報 展示ロビー	介護体験 ツアー受付 介護実習・ 普及センター
9:00	9:30~ 開場				9:30~ 10:20 ポスター 貼付			
10:00	10:20~10:50 開会式					一般可 10:30 ~ 16:00 機器 展 示 & マ ル シ エ		
11:00	11:10~12:10 学会長講演 介護ロボット 最前線 講師：吉満 孝二 座長：福永 一喜		11:10~12:10 口述発表 1 脳血管疾患等① 座長：秦 陽一	11:10~12:10 口述発表 2 地域 座長：池田 真一	11:10~ 13:00 ポスター 発表			
12:00			12:30~13:30 口述発表 3 援助機器 座長：為近 岳夫				12:00 ~ 14:50 eス ポ ー ツ 体 験 & O T 瓦 版	
13:00	13:00~14:00 教育講演 1 アートブリュット 生み出すことと生 きること~美術と 福祉の交わる場所 講師：保坂 健二郎 座長：藤田 賢太郎		13:40~14:40 口述発表 4 脳血管疾患等② 座長：豊栄 峻					
14:00			15:10~16:10 専門職講演 腎臓リハビリ テーション~透 析中リハビリテー ションへの取り組み~ 講師：上谷 耕平 座長：植村 健一		14:20~15:20 口述発表 5 高齢期 座長：川井田 翔悟			14:00 ~ 14:50 介護ロボ 体験ツアー
15:00		14:50~16:20 座談会 1 生きる 一歩前へ 講師：Shoko (高橋尚子) 座長：西 綾			15:30~16:30 口述発表 6 MTDLP 座長：黒木 辰朗			
16:00								
17:00	16:30~18:00 シンポジウム 1 作業療法 ×最新技術 ~作業療法の 未来について~ シンポジスト： 葉山 靖明 竹林 崇 川口 晋平 座長：濱添 信人	16:40~18:10 九州作業療法士会 MTDLP 推進 委員会企画 MTDLP の実 践力を高めよう ~インテークから合意 目標設定までのプロ セスを再考する~ 講師：齋藤 佑樹 座長：西 聡太						
18:00								
					17:00~ 18:00 ポスター 撤去			

一般可：一般の聴講(参加)可 専門職可：OT/他職種聴講(参加)可 W：ウェビナー配信 Z：Zoom 配信

2日目 2023年7月9日(日) かごしま県民交流センター

1階	2階	4階	2階			
メイン会場	各講演会場	口述発表会場1	口述発表会場2	機器展示 マルシェ	eスポーツ OT・広報	介護体験 ツアー受付
県民ホール	中ホール	大研修室3	大研修室4	大ホール	展示ロビー	介護実習・ 普及センター
9:00						
9:30	開場					
10:00	<p>10:00～11:30</p> <p>シンポジウム2 発達支援K-OTチーム企画 児童発達支援における「遊び活動」 の実施～多職種 協働の観点から～ シンポジスト： 長友 美保 瀬戸山 明子 山下 律子 金子 信夫</p> <p>座長：井上 和博 ※オンライン配信なし</p>	<p>10:00～11:20</p> <p>優秀演題発表 座長：四元 祐子</p>				<p>10:00～ 10:50</p> <p>介護ロボ 体験ツアー</p>
11:00	<p>11:30～13:00</p> <p>座談会2 仕事の流儀 福祉のリーダー、 リハビリを語る! 講師：川畑 善博 中迎 聡子 座長：西 綾</p>	<p>11:30～12:30</p> <p>口述発表7 運動器疾患・ 認知障害 (高次脳機能 障害を含む) 座長：湯永 正敏</p>	<p>11:30～12:30</p> <p>口述発表8 発達障害・教育 座長：内勢 美絵子</p>	<p>10:30 ～ 15:30</p> <p>機 器 展 示 & マ ル シ エ</p>		
12:00					<p>12:00 ～ 14:00</p> <p>e ス ポ ー ツ 体 験 & O T 瓦 版</p>	
13:00	<p>13:00～14:30</p> <p>九州作業療法士会会長会 リーダー養成 研修会 九州はひとつ！ 人がつながる土会 活動を語ろう！！ ～新しいステージ に向けて～</p>					
14:00	<p>13:30～14:30</p> <p>教育講演3 命に寄り添う 講師：奥田 知志 座長：吉満 孝二</p>					
15:00	<p>14:40～15:00</p> <p>次期学会長挨拶</p> <p>15:00～15:30</p> <p>閉会式／表彰式</p>					

一般可：一般の聴講(参加)可 専門職可：OT/他職種聴講(参加)可 W：ウェビナー配信 Z：Zoom配信

プログラム

学会長講演 7月8日(土) 11:10～12:10

メイン会場(県民ホール)(Zoom ウェビナー)

一般聴講可

座長：福永 一喜(株式会社 イロドリ)

介護ロボット最前線

吉満 孝二 鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻 助教

教育講演1 7月8日(土) 13:00～14:00

メイン会場(県民ホール)(Zoom ウェビナー)

一般聴講可

座長：藤田 賢太郎(鹿児島医療技術専門学校)

アートブリュット 生み出すことと生きること ～美術と福祉の交わる場所～

保坂 健二郎 滋賀県立美術館 館長・ディレクター

教育講演2 7月9日(日) 10:00～11:00

メイン会場(県民ホール)(Zoom ウェビナー)

一般聴講可

座長：窪田 正大(鹿児島大学 医学部 保健学科)

晴れ晴れと高次脳機能障害支援

岡村 忠弘 NPO 法人 脳損傷友の会 高知青い空 統括
株式会社 FIRST RATE 取締役

教育講演3 7月9日(日) 13:30～14:30

メイン会場(県民ホール)(Zoom ウェビナー)

一般聴講可

座長：吉満 孝二(鹿児島大学 医学部 保健学科)

命に寄り添う

奥田 知志 認定NPO 法人 抱樸(ほうぼく) 理事長

シンポジウム1 7月8日(土) 16:30～18:00

メイン会場(県民ホール)(Zoom ウェビナー)

一般聴講可

座長：濱添 信人(種子島医療センター)

[作業療法×最新技術 ～作業療法の未来について～]

シンポジスト：

葉山 靖明 ケアプラネッツ 代表

竹林 崇 大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 教授

川口 晋平 田川新生病院

シンポジウム2 7月9日(日) 10:00～11:30

各講演会場(中ホール)

一般参加可

座長：井上 和博(鹿児島大学 医学部 保健学科)

発達支援 K-OT チーム企画

[児童発達支援における「遊び活動」の実施 ～多職種協働の観点から～]

シンポジスト：

長友 美保 子ども家庭支援センターみらい

瀬戸山 明子 一般社団法人ココロ こども発達相談センターいろは

山下 律子 特定非営利活動法人にじ こども発達相談センターにじいろ

金子 信夫 フリーランス

座談会1 7月8日(土) 14:50～16:20

各講演会場(中ホール)(Zoom ウェビナー)

一般聴講可

座長：西 綾(株式会社 輝く羽)

生きる 一歩前へ

Shoko(高橋 尚子) 株式会社 CREIT 代表

一般聴講可

座長：西 綾(株式会社 輝く羽)

仕事の流儀 福祉のリーダー、リハビリを語る！

川畑 善博 株式会社ラグーナ出版 代表
精神保健福祉士

中迎 聡子 株式会社いろ葉 代表

一般聴講可

座長：植村 健一(鹿児島第一リハビリテーション専門学校)

腎臓リハビリテーション ～透析中リハビリテーションへの取り組み～

上谷 耕平 医療法人青仁会 池田病院 血液浄化センターリハビリテーション 作業療法士

OTのみ

座長：西 聡太(介護老人保健施設 清雅苑)

MTDLP の実践力を高めよう ～インテークから合意目標設定までのプロセスを再考する～

齋藤 佑樹 学校法人北杜学園 仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授
宮城刑務所 機能訓練アドバイザー

OTのみ

リーダー養成研修会企画

九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！ ～新しいステージに向けて～

抄 録

介護ロボット最前線

吉満 孝二

鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻 助教

従来、リハビリテーション専門職と福祉用具との関係は非常に密接で、作業療法士は福祉用具の選択、調整、使用方法の指導、そして福祉用具が利用者の生活に与える影響の評価などに深く関与してきました。近年、社会のDX化、IoT化が進む中で福祉用具はさまざまな広がりを見せ、現代においては介護ロボットが注目を浴びています。

そこで、本講演では、介護ロボット初級編として、所属施設(関連施設を含む)で介護ロボットを導入する際、私たちが理解しておかなくてはならない職員ニーズの評価手順、適切な介護ロボットの選択と環境調整、介護ロボットの適応対象者の選択手順、職員への使用方法の伝達、介護ロボット試用後の評価方法について解説します。

さらに中級編として、特に管理職向けに、介護保険の次期改訂で加算対象となるであろう介護ロボット導入による「生産性向上」の取組みの実例を紹介すると共に、今後職場で私たちが果たすべきリーダーシップについても説明します。

作業療法士は介護ロボットの開発においても、専門性を発揮して、プレゼンスを示すことができます。最後に鹿児島県作業療法士協会の介護ロボット研究班が介護ロボットのニーズ・シーズマッチング事業で行った取り組みや企業と異分野連携で見守りコミュニケーション機器の開発を行った経験から、作業療法士の未来の職域についても述べたいと思います。



学 歴

- 1993年3月 明治大学 商学部 商学科 卒業
- 1998年3月 鹿児島大学 医療技術短期大学部 作業療法学科 卒業
- 2003年3月 鹿児島大学 修士(法学)取得
- 2011年4月 鹿児島大学大学院 博士(保健学)取得

職 歴

- 1993年4月 医療法人桜松会 入職
- 1998年4月 作業療法士免許 取得、医療法人社団慶栄会 入職
- 2001年4月～ 鹿児島大学 医学部 保健学科 入職
- 2014年9月 認定作業療法士資格 取得

社会活動

- 2012年5月～ 鹿児島県作業療法士協会理事 就任
- 2021年6月～ 介護ロボット相談窓口設置事業(厚労省)業務アドバイザー 就任
介護ロボットニーズシーズマッチング支援事業(厚労省)
マッチングサポーター 就任
- 2022年5月～ 鹿児島県作業療法士協会会長 就任

アートブリュット 生み出すことと生きること ～美術と福祉の交わる場所～

保坂 健二郎

滋賀県立美術館 館長・ディレクター

art brut はフランス語で、英語に直訳すれば raw art、すなわち「なまの美術」を意味する(ちなみに一時期日本でも良く聞かれたアウトサイダー・アートというのは、英語圏である編集者によってつくられた、惹句とも言える造語にほかならない)。アール・ブリュットの定義は簡単ではなく、その言葉を1945年頃に生み出したジャン・デュビュッフエの言葉を借りつつまとめれば、芸術的文化によって傷つけられていない人達が、己の深みから、模倣をまったくあるいはほとんどしない方法でつくったもの、となる。しかし、「芸術的文化によって傷つけられていない人達」がわかりにくいということで、特に日本ではマスメディア経由で「美術の専門的教育を受けていない」と意識され、さらには、「アール・ブリュット」が「障害者による美術」とほとんど同義になってしまった。

この発表では、まずアール・ブリュットの定義や、その概念が生まれた背景を再確認する。その上で、なぜ今アール・ブリュットを見ること、考えること、評価することが重要なのかについて考えてみたい。その時のキーワードとなるのは「日常との連続性」「AIとは異なるであろう衝動性」「支える人の存在」「既存の価値観や基準の相対化」などである。なお発表では、富山健二(鹿児島県)、藤岡祐機(熊本県)など、国内外で高く評価されている作品の制作風景を、動画で紹介する。



略 歴

1976年生まれ。慶應義塾大学大学院 修士課程 修了後、2000年より20年まで東京国立近代美術館に学芸員として勤務、2021年より現職。企画した主な展覧会に「フランス・バーコン展」（東京国立近代美術館、2013年）、「隈研吾展 新しい公共性をつくるための猫の5原則」（東京国立近代美術館、2020-21年）、「人間の才能 生みだすことと生きること」（滋賀県立美術館、2022）など。これまで、内閣府「障害者政策委員会」専門委員、厚生労働省・文化庁「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会」構成員、文化庁・厚生労働省「障害者文化芸術活動推進有識者会議」委員、厚生労働省「障害者の芸術活動支援モデル事業評価委員会」構成員、東京都「東京芸術文化評議会アール・ブリュット検討部会」専門委員、「東京都渋谷公園通りギャラリー外部評価委員会」委員、文化庁「文化審議会 文化経済部会 アート振興ワーキンググループ」専門委員などを歴任。国立新美術館評議員や公益財団法人大林財団「都市のヴィジョン」推薦選考委員も務める。

主な著作に『アール・ブリュットアート日本』（監修、平凡社、2013年）など。

晴れ晴れと高次脳機能障害支援

岡村 忠弘

NPO 法人 脳損傷友の会 高知青い空 統括
株式会社 FIRST RATE 取締役

脳損傷友の会高知青い空(以下、青い空)は、平成15年3月、4家族が集まったの初会合以来、事故や病気で脳を損傷し、その後遺症として高次脳機能障害のある当事者、及びその家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識や情報の提供、及び社会参加を促進するための事業等を行うことで、当事者の日中活動の場を確保し、当事者・家族が安心して生活できる環境を整え、併せて社会の理解を得ることを目的に活動を行っている。今回は、青い空の活動紹介に加え、その活動の中で、事例を通して見えてきたいいくつかの課題等を報告する。

1事例目は、数年前に脳を損傷した男性で、一人で子ども二人を育てていた事例である。生活保護や扶養手当などで得た収入をパチンコに行き散財し、食材を買うお金が無くなった時には、近所の人や保育園の園長先生に何度もお金を貸して欲しいと交渉している。食材を買うことができず、子供たちが何も口にしない日がある。事例は、感情をコントロールできない時があり、ダメな事だと分かっているが、時々、子供たちに手をあげてしまう。

2事例目は、非理性的行動が顕著な事例である。例えば、女性職員に対して、そのような行動がダメだと分かっているが抑えることができない。支援を続けることで事業所内では非理性的行動の頻度が減少していったが、ここ数年、自宅でも同様の非理性的行動がみられ、とくに娘さんに対してそういった行動がエスカレートしているという事実が存在した。すでに家族の精神的負担はピークに達しており、事例は精神科入院の運びとなった。

3事例目は、暴力行為が顕著な事例である。アパートの隣人が出す音にガマンができなくなり、隣人を殴ってしまい、それが原因でアパートを出されたことがある。やっとの思いで探した次のアパートでも隣人とトラブルになり、暴力行為を抑えることができなかった。

上記の3事例を振り返りながら、高次脳機能障害者支援の現状と浮き彫りとなっている社会的課題について報告する。

また、4事例目として、事業所の作業台にカッターナイフの刃を差し込み続けた事例を紹介する。問題行動と評価していたこの行為を私たちは6年6か月見守った。その経過に加え、青い空の障害者の芸術文化活動の取り組みについて報告する。



略 歴

2002年4月～2010年2月	医療法人新松田会 愛宕病院
2009年3月	高知大学大学院 医学系研究科 修士課程 修了
2010年3月～2014年3月	関西総合リハビリテーション専門学校
2014年4月～	株式会社 FIRST RATE
2015年4月～	特定非営利活動法人 脳損傷友の会 高知青い空

所属学会等

- 一般社団法人 日本作業療法士協会
- 一般社団法人 高知県作業療法士会
- 一般社団法人 日本高次脳機能障害学会

命に寄り添う

奥田 知志

認定NPO法人 抱僕(ほうぼく) 理事長

抱僕が活動をはじめた1988年。路上には、家を失った方々があふれていました。

経済的困窮(ハウスレス)だけでなく社会的孤立(ホームレス)状態にある方を支援してきました。その活動の中で見えてきたのが、つながり自体に価値を置く「伴走型支援」という考え方です。

家族や社会との縁が細くなってきた現在、赤の他人でも支えあうことのできる関係、実践についてお話しさせていただきます。





略 歴

1963年生まれ。関西学院 神学部 修士課程、西南学院大学 神学部専攻科をそれぞれ卒業。

九州大学大学院 博士課程後期単位 取得。1990年、東八幡キリスト教会 牧師として赴任。同時に、学生時代から始めた「ホームレス支援」に北九州でも参加。事務局長等を経て、北九州ホームレス支援機構（現 抱樸）の理事長に就任。これまでに3,500人（2020年3月現在）以上のホームレスの人々の自立を支援。その他、共生地域創造財団 代表理事、全国居住支援法人協議会 共同代表、国の審議会等の役職も歴任。第19回糸賀一雄記念賞 受賞など多数の表彰を受ける。NHKのドキュメンタリー番組「プロフェッショナル仕事の流儀」にも2度取り上げられ、著作も多数と広範囲に活動を広げている。

著 書

「いつか笑える日が来る」（いのちのことば社）

「助けてと言える国へ」（茂木健一郎氏共著・集英社新書）

「ユダよ、帰れ」（新教出版社）

「伴走型支援」（有斐閣）等

[作業療法×最新技術 ～作業療法の未来について～]

DX で育てる未来の作業療法士 ～メタバース空間での Onehand 料理教室から～

葉山 靖明

ケアプラネット 代表

2021年より開始された私たちの研究プロジェクト「ピアサポートのDX化による新しい当事者参画医療社会モデルの構築に向けたシナリオの創出」は、私のような障がいの経験者等によるいわゆる「ピアサポート」をデジタル化し、遠隔からの参加や蓄積されたデータの可視化により、その価値を明らかにし、「ピアサポート」の普及、そして新しい当事者参画医療社会モデルを作るためのシナリオを考えることです。

2022年、この実装研究は、北海道帯広市、東京都世田谷区、福岡県福岡市の3拠点において行われ、福岡市の「WithUs プロジェクト」では私も参加し、「ピアサポート×教育×DX」という狙いを持ち、進みました。

以下は、福岡市内養成校、作業療法学科2年生への講義カリキュラムです。

- 第0回 6月 プレ講義(学生の研究参加意志確認)
- 第1回 6月 リハビリテーションとピアサポートについて(概論)
- 第2回 7月 当事者と学生とのICT交流会
- 第3回 9月 メタバースを使つての教育プログラム 「下町キッチン」片手の料理教室
- 第4回 10月 ニューミーを使った遠隔リハビリの可能性
- 第5回 10月 AVRを使用した未来のリハビリ
- 第6回 11月 学生と考える WithUs プロジェクトの未来

特に第3回目の「下町キッチン」では、メタバース空間において片麻痺当事者が講師となる料理教室を開催し、①教室の学生へ、②遠隔地の障がい当事者へ、③オンライン参加の学生へ、メタバースの最新のデジタル機器を使用し行われました。言わば密室であった障がい生活が学校教育の中で、遠隔地への公開が可能となりました。

2023年、これからの作業療法士に、「障がいの当事者性」及び「進化する最新技術を使った作業」は、必要不可欠であると思います。昨年、全7回の講義では、「学生」「障がい者」「最新技術メーカー」がそれぞれにモチベーションを高め、相乗効果を確認することができました。

また、今研究は脳卒中者生活を研究する医療社会学研究者も参画し、多面的、かつ深い視点で障がい生活を捉え進められている点も含め、シンポジウムにおいて発表し、皆様と共に考える有意義な時間にしたいと思います。

(作業療法ジャーナル(三輪書店)、2022年11月号及び2023年4月号の「作業療法を深める」に掲載。)

【参照】

[RISTEC SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(シナリオ創出フェーズ)
ピアサポートのDX化による、新しい当事者参画医療社会モデルの構築に向けたシナリオの創出]
<https://peersupportproject.weebly.com/>



職 歴

- 1996年 学校法人大原学園 教務課にて会計学・法人税法講師
- 2007年 福岡県宗像市において株式会社ケアプラネット 設立
- 2008年 デイサービスけやき通り 開設(作業療法型通所介護)
- 2016年 NPO 学びあい 設立 副理事長

社会的活動

「だから、作業療法が大好きです!」2012, 三輪書店, 単著

「Look at what you can do!」2014, 三輪書店, 単著

「幸せになるリハビリテーション」2016, 環境新聞社, 2016, 土居勝幸編著

日本各地のOT養成校等において毎年約20コマの講義を行う。他に、オーストラリア、アメリカ、オランダ、タイ、ミャンマー、中国、韓国において作業療法、作業科学に関する講義や発表を行う。

資 格

社会福祉士主事

身体障害者手帳 2級1種「左脳内出血による右上下肢機能の著しい障害」

研究テーマ

- 修士論文:「片手で出来る料理教室」のエスノグラフィー ～“夢のみずうみ村”における新たな人生再構築プロセス～
- 現在:ピアサポートのDX化による、新しい当事者参画医療社会モデルの構築に向けたシナリオの創出

[作業療法×最新技術 ～作業療法の未来について～]

脳卒中後に生じる上肢麻痺に対する ロボットを用いた作業療法について

竹林 崇

大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 教授

脳卒中後に生じる上肢麻痺は、対象者の Quality of life (QOL) に影響を与える要因の一つと言われている。したがって、この後遺症に対する治療法の開発は喫緊の課題と考えられている。1990年代の半ばから、脳卒中後に生じる上肢麻痺に対する治療法の開発は活発化しており、多くの臨床試験によって、それらの効果が検証されてきた。リハビリテーション領域においてもその数は比較的多く、効果のエビデンスが比較的充足している分野の一つであると言える。したがって、世界各国の脳卒中リハビリテーションに関連するガイドラインにおいても多くの治療法が検討され推奨度等が示されている。

代表的な脳卒中リハビリテーションに関連するガイドラインの一つに、脳卒中に関連する情報を集約する世界的な機関である米国心臓/脳卒中学会によるガイドラインがある。このガイドラインには、脳卒中後に生じる上肢麻痺に対して推奨されているアプローチがいくつか記載されている。それらの代表格として、ロボット療法と対象者個々の作業の達成を目的とした運動療法である Constraint-induced movement therapy (CI療法) の2つのアプローチが使用を強く推奨されている。

ロボット療法であるが、多くの研究において、従来の理学療法・作業療法によるアプローチと基本的には変わらない効果を示すと示されている。その中で、「重度・中等度の麻痺を有する対象者における練習量を確保するためのデバイスとしての有用性」と「費用対効果において、療法士が提供するリハビリテーションに対する効率性」がロボット療法を使用する上での長所として紹介されている。しかしながら、研究の中には、ICFにおける身体機能・構造に関わるアウトカムに対しては優位性を確保しているものの、活動、社会参加に関するアウトカムについては、従来法に対し優位性がないといった報告もある。近年の研究では、脳卒中患者の上肢麻痺において、身体機能・構造に関わるアウトカムよりも活動・参加に関わるアウトカムの方が、QOLに良影響を与える可能性についても述べられている。このことから、ロボットを用いたリハビリテーションが、対象者にとっての意味のある作業に影響を与えるためには、何かしらの工夫が必要なことがわかった。

そこで、上でも紹介した、練習によって獲得した上肢機能を生活行為および対象者の意味のある作業に反映させる特徴を有するCI療法を併用することで、ロボットを用いたリハビリテーションが有する欠点を克服できる可能性を考えた。この研究疑問について、筆者らが2022年に Stroke 誌に公表した研究の中で、ロボットを用いたリハビリテーションとCI療法を併用した場合、実生活における麻痺手の使用頻度を示す Motor Activity Log が示す、臨床上意味のある最小変化量 (Minimal Clinical Important Difference : MCID) を超える変化を示した。

ロボットを作業療法の中で使うためには、ロボットの強みと作業療法士の強みを融合させ、対象者の意味のある作業に焦点を当てたオーダーメイドの介入を実施する必要があると考えている。本シンポジウムにおいても、この点を強調し、議論を進めたいと考えている。



略 歴

- 平成 15 年 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 卒業
兵庫医科大学病院 リハビリテーション部 入職
- 平成 23 年 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学 入学
- 平成 24 年 University of Alabama, Birmingham, CI therapy training program 修了
JAICA ホーチミン チョーライ病院にて技術支援
- 平成 25 年 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学 修了
兵庫医科大学 医科学先行高次神経制御系リハビリテーション科学 入学
- 平成 28 年 兵庫医科大学病院 リハビリテーション部 退職
吉備国際大学 保健福祉学部 入職
- 平成 30 年 兵庫医科大学 医科学先行高次神経制御系リハビリテーション科学 修了
吉備国際大学 保健福祉学部 退職
大阪府立大学 地域保健学域総合リハビリテーション学類 准教授入職
- 平成 31 年 American Congress of Rehabilitation Medicine にてシンポジスト招聘
- 令和 2 年 大阪府立大学 地域保健学域総合リハビリテーション学類 教授
- 令和 4 年 大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 教授(現職)

近 著

- Takebayashi, Takashi, et al. "Robot-assisted training as self-training for upper-limb hemiplegia in chronic stroke: A randomized controlled trial." *Stroke* (2022): 10-1161.
- Takebayashi, Takashi, et al. "Impact of the robotic-assistance level on upper extremity function in stroke patients receiving adjunct robotic rehabilitation: sub-analysis of a randomized clinical trial." *Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation* 19, 1 (2022): 1-10.
- Takebayashi T, et al: The Impact of Initial Flexor Synergy Pattern Scores on Improving Upper Extremity Function in Stroke Patients treated with Adjunct Robotic Rehabilitation. *Top Stroke Rehabil*, in press, 2020
- Takebayashi T, et al: Assessment of the efficacy of ReoGo-J robotic training against other rehabilitation therapies for upper-limb hemiplegia after stroke: Protocol for randomized controlled trial. *Front Neurol* 9: 730, 2018
- Takebayashi T, et al: Improvement of upper extremity deficit after constraint-induced movement therapy combined with and without preconditioning stimulation using dual-hemisphere transcranial direct current stimulation and peripheral neuromuscular stimulation in chronic stroke patients: A pilot randomized controlled trial. *Front Neurol* 8: 568, 2017
- Takebayashi T, et al: Differences in neural pathways are related to the short-or long-term benefits of constraint-induced movement therapy in patients with chronic stroke and hemiparesis: a pilot cohort study. *Top Stroke Rehabil*. 25: 203-208, 2018

著 書

- 竹林崇, 他: 作業で紡ぐ上肢機能アプローチ 作業療法における行動変容を導く機能練習の考え方. 医学書院, 2021
- 竹林崇: 上肢運動障害の作業療法—麻痺手に対する作業運動学と作業治療学の実例—. 文光堂, 2018
- 竹林崇(編), 道免和久(監): 行動変容を導く上肢機能回復アプローチ 脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略. 医学書院, 2017

[作業療法×最新技術 ～作業療法の未来について～]

3D プリンタを使った アシスティブテクノロジーの活用法と課題解決

川口 晋平

田川新生病院

様々な分野において3Dプリンタの活用が広がってきている。その範囲は、教育分野、建築分野及び医療現場等、多岐にわたっている。リハビリテーション分野においても、難病を患った対象者が独力でパソコンを操作するための工夫を凝らされたマウスの自助具などを作成するために3Dプリンタが利用された前例はある、しかしながら、他の分野と比較すると3Dプリンタが普及しているとは言い難い状態である。

さて、リハビリテーション分野において、療法士が対象とする疾患の一つに脳卒中がある。脳卒中に関するリハビリテーションは年々進歩しているものの、多くの脳卒中患者が上肢の麻痺といった後遺症を有すると言われている。脳卒中後に生じる上肢麻痺の機能予後は約20%が廃用手、65～85%が部分的に回復すると推定されている。また、実用手は5～6%という報告もなされている。したがって、これらの報告からも多くの脳卒中患者は退院後、片手のみの生活を送っていることが予想される。

片手のみの生活になるとADL動作やIADL動作などに支障をきたすことが多い。実際は、家族や周辺のキーパーソンがそれらの動作を介助する事が多く、対象者自身が望んでも自分自身で困難なことが多く存在する。そのような身体機能の低下を原因とする動作の困難を補うために作業療法の分野では古くから自助具が使用されてきた。自助具は食事や入浴、家事など様々な場面において、身体の不自由な方の自立を助け、日常生活をより快適に送るために工夫された道具である。これらの自助具の一部は市販されている。しかしながら、入院中に作業療法士が手作りすることもあり、退院後、使用しているうちに破損し、使用できなくなることも少なくない。しかし、それらの自助具を修繕したり、新しいものを作製するための作業療法士に相談できる場は地域には少ない。したがって、対象者は自助具を活用して自分自身で出来ていた動作が継続できない事も予測される。

加えて、病院等の臨床現場においても、担当した作業療法士の自助具に対する知識や手先の器用さ、材料代の負担、制作時間に対し診療報酬等のコストが発生しないといった様々な問題があり、自助具を作製する作業療法士も年々少なくなっている印象もある。

そこで、筆者は退院後の生活においても、対象者自身が自助具を買い求められるように、3Dプリンタを用いて、自助具を作製・販売する『片手でできるプロダクト』を立ち上げることにした。この試みでは、ニーズの聴取、デザインに対するフィードバック等、作製の段階から対象者の方の意見を広く聞く、Co-design、inclusive designの手法をとっており、長く使える道具の作製を目指している。

今回のシンポジウムでは、私が最初に作製した「片手で開けられるペットボトルオープナー」をどのように考え、作製に至ったのか。また、自助具作製におけるアイデアの出し方、片手生活を送っている方のための日常生活動作における課題の探し方・解決方法についてお話しする予定である。聴衆の方々が少しでも3Dプリンタに興味を持っていただければ幸いである。



略 歴

- 2003年 日本大学 建築学科 卒業
ヤマハリビングテック株式会社 入社
- 2006年 北九州リハビリテーション学院 入学
- 2009年 北九州リハビリテーション学院 卒業
田川新生病院 入職(作業療法士免許 取得)

発達支援 K-OT チーム企画

児童発達支援における「遊び活動」の実施 ～多職種協働の観点から～

座長

井上 和博

鹿児島大学 医学部 保健学科

近年、障害が確定した子どもへの障害の軽減・改善だけでなく、障害が確定しない(障害の可能性ある)段階の子どもも対象として、発達基盤となる家族への支援や地域機関への支援も視野に入れる「発達支援」という考えが注目されてきている。その中で、幼児期の子どもにおいては、児童発達支援が重要な拠点となっている。そこでの目標は、診断の有無にかかわらず、子どもの自尊心や主体性を育てながら発達上の課題を達成させ、地域での健やかな育ちを図っていくことである。そして、支援方法として、集団および個別に実施する「遊び活動」が重要な役割を担っており、それらは特定の職種だけでなく、多職種で実施されていることが特徴である。

そこで今回、児童発達支援における「遊び活動」について、それぞれの職種がどのような視点で捉え、どのように実施しているかを知り、今後の「遊び活動」のさらなる充実を図るために皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

略 歴

平成2年 作業療法士免許 取得 社会福祉法人こぐま学園 勤務
平成11年 広島大学大学院 医学系研究科 博士前期課程 修了(保健学修士)
平成13年 鹿児島大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻 勤務
平成22年 鹿児島大学大学院 保健学研究科 博士後期課程 修了(保健学博士)

こちらの二次元バーコードでは、座長・シンポジストの紹介とシンポジストの意気込みを紹介しております。学会当日までオンデマンドでご覧になれます。



<https://youtu.be/CL8zvh91iHw>

発達支援 K-OT チーム企画

〔 児童発達支援における「遊び活動」の実施 ～多職種協働の観点から～ 〕

子どもにとって遊びは生きる力、 そして楽しい遊びは発達の原動力

シンポジスト 児童発達管理責任者の立場から

長友 美保

子ども家庭支援センターみらい

子どもにとって“遊び”は生きる力そのものだと思う。そして、その遊びは子ども自身が「楽しそうだな」「やってみたいな」と心を揺らし、自ら手を伸ばし、一歩足を踏み出していくもの(遊び)であることが大切にされるべきであり、子どもの願いからはじまる遊びは発達の原動力になると考えている。

遊び活動は、私にとって、子どもの今を知り、子どもの可能性を見出す場である。遊び活動の中で見せる子どもの姿には、目には見えない思いや願いが、一人一人それぞれのサインで発信されており、その思いや願いに気づき、遊びを通して、その子の世界を豊かに広げていくことが私たち(児童発達支援)に求められていると思っている。また、遊び活動を通して、子どもが発達の主人公となり、矛盾を乗り越え、新しい力を獲得していく姿を見るたびに、私は、子どもの可能性を信じる力を与えてもらっている。

略 歴

平成5年	小学校教諭・幼稚園教諭取得 あすなろ幼稚園 勤務(幼稚園教諭)
平成6年	障害児入所施設 みさかえ学園 勤務(指導員)
平成10年	鹿児島子ども療育センター 勤務(児童指導員)
平成21年	子ども家庭支援センターみらい 勤務(児童発達支援管理責任者)
平成28年	かもう・子ども発達支援すくすく 勤務(児童発達支援管理責任者)
平成30年	子ども家庭支援センターみらい 勤務(児童発達支援管理責任者)

発達支援 K-OT チーム企画

〔 児童発達支援における「遊び活動」の実施 ～多職種協働の観点から～ 〕

あそびから広がる豊かな可能性

シンポジスト 臨床心理士の立場から

瀬戸山 明子

一般社団法人ココロ こども発達相談センターいろは

子どもの心理療法として用いられる「あそび」は、同じあそびであっても、それぞれの子ども
の特性、問題次第でまったく異なる。児童発達支援事業を利用する子どもたちにおいては、人との
関わりやことばを介したやりとりが苦手な子ども、感覚の偏りによってあそびを共有することが出
来ない子どもなど様々な課題を持って来所する子どもが多い。そのような子どもたちに対して、あ
そびは自然な心的活動であり、いろいろなあそびの中で子どもが「好きだ」と感じられるあそび
を探していく過程が大切である。「好きなあそび」を通してセラピストとの1対1の関係から、人
と関わる機会をもち、楽しいと感じられる経験を積み重ねていき、さらに「好きなあそび」は子
どもを集団という世界へ興味をもつきっかけになる。

児童発達支援事業所の中で、子どものイメージを広げ、人との関わりの中につなげていくあそび
から広がる豊かな可能性について、心理職の立場から意見を述べさせていただきたいと思う。

略 歴

平成11年	恒心会おぐら病院 勤務
平成15年	臨床心理士資格 取得
平成26年	NPO 法人にじ こども発達相談センターにじいろ 勤務
平成31年	公認心理師資格 取得
令和2年	鹿児島市北部保健センター 勤務
令和4年	一般社団法人ココロ こども発達相談センターいろは 勤務

発達支援 K-OT チーム企画

〔 児童発達支援における「遊び活動」の実施 ～多職種協働の観点から～ 〕

遊びの中で言語・コミュニケーションの発達を支援する

シンポジスト 言語聴覚士の立場から

山下 律子

特定非営利活動法人にじ こども発達相談センターにじいろ

言語・コミュニケーションの発達支援に取り組んできた中で、目的を持った遊びに意識を向けすぎて失敗した経験がある。その経験から学んだことは、大人が想定した遊びで『遊ばせよう』としても上手くいかないということである。支援の対象となる子ども達にはそれぞれの〈遊び〉がある。大人から見てそうは見えなくても、その子にとって〈遊び〉であれば、大人も〈遊び〉として認め共有することが大切となる。子どもが〈自分の遊びに反応してくれる存在〉を認識した時、コミュニケーションが始まっていく。遠回りのように思えるが、これが一番自分らしい支援方法であり、効果も実感している。今回は、児童発達支援に携わる多職種と意見を交換することで、事業所でこそできる支援の在り方や役割についても考えたいと思う。

略 歴

平成9年	医療法人健康会 南九州リハビリテーション病院(現:霧島記念病院)勤務
平成11年	言語聴覚士免許 取得 医療法人恒心会 小倉リハビリテーション病院(現:恒心会おぐら病院)勤務
平成17年	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 勤務
平成26年	特定非営利活動法人にじ こども発達相談センターにじいろ・みんなのおうち

発達支援 K-OT チーム企画

[児童発達支援における「遊び活動」の実施 ～多職種協働の観点から～]

作業療法の視点で子ども達の心を動かそう

シンポジスト 作業療法士の立場から

金子 信夫

フリーランス

近年、児童発達支援及び放課後等デイサービスガイドライン、幼稚園教育要領及び保育所保育指針、小学校学習指導要領において、「主体的」というキーワードが記載されており、子ども達の育ちには主体的に活動に参加し、自ら学ぶことや気づく経験を積むことが大切なことと私は考えています。そして、作業療法士の遊び活動の視点の1つに、子ども達が興味関心を持ち意欲を持って主体的に取り組み、楽しさや心地よさなどの感動を得ることができるように活動や環境をデザインすることであり、我々の視点は児童発達支援や放課後等デイサービス、保育・教育現場に大いに貢献できるものと信じています。

今回のシンポジウムでは、活動の内容や流れの設定、場や時間などの環境の工夫など集団場面の遊び活動の私の作業療法の視点や考えをご紹介します。

略 歴

平成17年	作業療法士免許 取得 医療法人恒心会 小倉記念病院・おぐらリハビリテーション病院(現:恒心会おぐら病院)勤務
平成26年	学士(保健衛生学)の学位取得 独立行政法人大学評価・学位授与機構
平成27年	社会福祉法人天上会 こども発達支援センターめぶき園 勤務
令和3年	フリーランス

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing or drawing.

生きる 一歩前へ

Shoko (高橋 尚子)

株式会社 CREIT 代表

2022年10月、初著書出版！

生きる 一歩一歩、前へ

高校3年生の時、不慮の事故で頸髄を損傷。

突然体の自由を奪われ人生のどん底を経験した著者が、家族や友人の支え・いろいろな人の言葉や行動から多くの影響を受けて、自分のペースで自分らしく進む決心をして歩む11年を綴ったストーリー。



10年後の私へ

あなたは今、幸せに暮らしていますか？

中学3年生の時に、10年後の私に宛てて書いていた手紙から始まる本書。

本文へと繋がるプロローグの最後は、こんな言葉で締めくくられている。

私は SNS には、「#車いす」というハッシュタグがついています。

中学3年生のあなたが想像していた姿とは違うかもしれません。

でも、心配しないで。

私は今、幸せに暮らしています。

プロローグより抜粋

【Message】 生きる意味を見失い何度も死にたいと思っていた私が、今を生きている理由。生きることへの葛藤や、これまでの日々で感じたことから形成されていった人生観をありのままの言葉で綴っています。

当日、お話できるのがとても楽しみです。来てくださる皆様とお会いできるのを心待ちにしております！



略 歴

17歳の時、全日本卓球選手権の帰り道に交通事故に遭い頸髄を損傷。手足の自由を失い車いす生活を余儀なくされる。

2019年にYouTube「しょうこちゃんねる」を開設し、登録者数は現在7.5万人を突破！2021年に株式会社 CREIT を設立。現在は、夢の一つでもあるブランド立ち上げに向けて準備中。

仕事の流儀 福祉のリーダー、リハビリを語る！

川畑 善博

株式会社ラグーナ出版 代表
精神保健福祉士

中井久夫と考える患者シリーズ

- I 統合失調症をたどる
- II 統合失調症をほどく
- III 統合失調症は癒える
- IV 統合失調症と暮らす



2016年から4年をかけて、『中井久夫と考える患者シリーズ全4巻』を刊行。それは、中井先生の言葉を、ラグーナで働く“考える患者”とともに語り合い、新たな統合失調症像をつくる試みであった。中井先生の言葉は、支援の流儀の原点になっている。

心身の不調や幻覚とか妄想とか、病気の症状も実はもう少し待っているとその人の足元を照らし出すようなものになっていく。僕はね、病気の治り方っていうのは症状の中に隠れている、つまり、これからしばらくどういう道を歩くのかってこと。その人がよりよく生きるための道を示すところがあるんじゃないかと。(1巻)

治療とは、ともに病みうる人間として、症状とよばれる霧の奥にあるその人自身と向き合い、人としての尊厳を再建する作業である。(3巻)

【メッセージ】患者とともに過ごした26年を振り返り、関わりの中で役立った小さな工夫を語りたいと思います。作業療法士の視点からいかにうつるのか想像がつかませんが、みなさまとの出会いを楽しみにしています。



略 歴

18歳の時、大学進学のため上京。「悟り」の言葉に惹かれ、半年間引きこもり読書三昧の生活を送る。卒業後、塾講師、出版社勤務を経て、帰鹿。「他者」と向き合える場所を探し、精神科病院に看護助手として入職。在職中、入院・デイケア患者とともに「売れる本をつくりませんか」というキャッチフレーズを掲げ、「シナプスの笑い」を創刊。NPO 法人精神をつなぐ・ラグーナを設立し、編集、営業活動を展開した。書店、地域の方々の応援、2006年の自立支援法施行の流れを受けて、「これは仕事になり、地域の居場所になる！」と、2008年、株式会社ラグーナ出版(就労継続支援 A 型事業所)を患者8名とともに設立した。

2011年自立訓練事業所を開始。2023年、同事業を廃止し、ラグーナ出版就労継続支援 B 型事業所ポラーノ・ポラーリを開設。木曜日にスパイスに凝ったカレーをつくっている。

仕事の流儀 福祉のリーダー、リハビリを語る！

中迎 聡子

株式会社いる葉 代表

22歳の時、「中迎聡子」という人生が一度きりであることに気づく！

一度しかない人生ならば、24時間365日どの瞬間も自分の心身を使い果たせるように生きようと決める。毎日が自分を耕されるような仕事につきたいとフリーターとなりやってみたくて思っていたいろんな仕事をする。

24歳、自分のやってみたくい仕事の中から「ビビッ」とくるものがなかったので、「若いうちは苦勞を買いなさい」という言葉が頭をよぎり、「やりたくない！向いていない！」と思っている仕事に飛び込んでみようと思決心する。一番に思いついたのが介護の仕事である。

当時、老人ホームは街中で見るものではなく、山の中だったり、人里離れたところにあったので勝手なイメージで私にとって老人ホームはお化け屋敷のようなものだった。

1999年特別養護老人ホーム勤務、目の前にある現実が自分の想像していた「老後にご褒美のような日々が待っている」と思って生きてきたが、目の前にある現実、私の想像をかけ離れていたり、想像もしていなかった暮らしに衝撃を受ける。それから今日まで、誰もが「ご褒美のような自分の時間」の中で死にいくことができる、体が不自由になっても、認知症になっても、私が私で死んでいくことができる人生を自分自身が送りたい、身近な人にそういう人生を送ってもらいたいと思日々心と体をかき乱されながら生きています。

1999年自分に向いていないと思った介護の仕事が、自分に向いているかはわかりませんが、この仕事に正解はないところがいまだにこの仕事に夢中になっている理由かもしれません。

介護の経験はたった3年でしたが、2003年にいる葉を立ち上げ、今年2023年で20年目を迎えました。私ひとりでは、なにひとつ出来なかったなとしみじみ思います。一緒に働いてくれた仲間や、出会った人たち、なによりもお年寄りたちのお蔭で今日の私があります。

極端なことを言えば、私の体は私だけのものではない。これまで出会ったみなさんとのご縁と関わりによって、私の細胞の1つひとつが出来ていると感じながら、毎日を送らせてもらっています。

100人いたら、100通りの生き方があります。暮らし方があります。他職種がそれぞれの専門性を発揮しシェアすることで、お箸の握り方、食べ方、歩き方、その一つ一つが変わりゆく体に合わせながらゆるゆるとピッタリくるシカタを変化しながら着地していくシゴトが面白くて大好きです。



A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing or drawing.

腎臓リハビリテーション ～透析中リハビリテーションへの取り組み～

上谷 耕平

医療法人青仁会 池田病院 血液浄化センターリハビリテーション 作業療法士

令和4年度診療報酬改定にて透析時運動指導等加算が新設され、透析利用者に対し、入院時や外来リハビリ実施時だけでなく、透析室の中でもリハビリスタッフが積極的に関わられるようになった。現在は多くの施設で透析中のペダル運動やチューブトレーニング等、様々な取り組みが行われている。

透析利用者は週3回、4～5時間の透析治療を行う中で、透析合併症等により、身体的にも精神的にも疲弊している方が多い。また近年、高齢化に伴い、転倒などによる骨折や認知機能や筋力の低下により、長期の入院や車いすでの移動を余儀なくされる方も多くみられる。

本講演では、当院で腎臓リハビリテーションの一環として行っている透析中のリハビリテーションへの取り組みや透析時運動指導等加算の概要と実施内容を紹介する。

そして本講演が透析医療におけるリハビリテーションの重要性と作業療法士としての関わりや課題について皆さんと考えていく場になれば幸いである。



略 歴

- 平成 21 年 3 月 学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 夜間部
卒業
- 平成 22 年 4 月 医療法人青仁会 池田病院 入職 リハビリセンターにて勤務
- 平成 23 年 4 月 血液浄化センターでの透析中リハビリを開始
- 平成 25 年 4 月 腎臓リハビリテーション専任作業療法士として、血液浄化センター
に配属
- 平成 25 年度 公益社団法人 日本透析医会公募研究助成 取得
「シャントトラブルに対する EMS(電気刺激療法)の効果に関する研究」
- 平成 27 年度 一般社団法人 日本透析医学会コメディカルスタッフ研究助成 取得
「透析利用者の慢性疼痛に対する超音波療法の効果に関する研究」

所属学会

- 日本作業療法士協会
鹿児島作業療法士協会
日本腎臓リハビリテーション学会
日本心臓リハビリテーション学会
鹿児島 CKD チーム医療研究会 世話人

MTDLP の実践力を高めよう ～インテークから合意目標設定までのプロセスを再考する～

齋藤 佑樹

学校法人北杜学園 仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授
宮城刑務所 機能訓練アドバイザー

生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)は、対象者の健康と幸福を促進すると思われる「作業に焦点を当てた目標」を前提に、目標達成を支援するプロセスが可視化・構造化されている。前提となる目標の質は、その後のプロセス全体に影響する。「良い目標」は、達成することが望まれる将来の状態を指すものであると同時に、達成までのプロセスにおいて、対象者を動機づけ、行動変容を促進する。

MTDLPでは「合意目標」という用語が使用されている。合意とは、お互いの考えや価値観をすり合わせながら意見を一致させるプロセスのことであり、作業療法士と対象者が目標を共創することを要請している。これは、目標設定プロセスに対象者が主体的に参加することを意味している。対象者が目標設定プロセスに参加することは、より個別性の高い目標の共創を促進するだけでなく、作業療法への参加意欲や自己効力感、QOLの向上に寄与することがわかっている。

しかしながら、脳卒中に代表される未曾有のライフイベントを経験した対象者が、主体的に活動・参加レベルの目標を設定するプロセスに参加することは容易ではない場合が多い。対象者の心理状態やコミュニケーション能力の程度によっては、合意形成を求めるプロセスが乱暴な手段の行使になりうる可能性もある。作業療法士は、MTDLPの構造を羅針盤に、望ましい作業療法プロセスを実践の中心に据えながらも、対象者の状況や目的に合わせた弾力的な対応が求められる。

弾力的な対応を行うためには、目的と手段を混同しないことが大切である。しばしば、MTDLPの「使える、使えない」議論や「特定の領域では使いづらい」等の意見を耳にするが、大切なことは、「どのような状況や目的でMTDLPを用いると対象者に最大の利益をもたらすことができるか」である。手段が目的化された議論は誰にも利益をもたらさない。目的を見失わず、あくまで無数の選択肢の中の一つであるという前提に立つとき、MTDLPは対象者の健康と幸福を促進する可能性を帯びる。

本講義では、作業療法の目的と手段について確認しつつ、MTDLPの目標設定プロセスに焦点を当てる。対象者と目標を共創するためには、面接等の対話が重要となる。「面接評価が苦手」「どのように質問したら良いか」などの質問を受けることが多いが、面接の難しさを「How to」で解決しようとは思わない方がよい。対象者との対話を通して望ましい目標設定を行うために必要な要素は、作業療法士が「作業が人に与える影響」「意思決定の形が人に与える影響」「目標に含まれるべき要素」について深く理解していることである。これらの理解が深まると、面接評価でどのようなことに配慮し、どのように会話を進めれば良いのかについて考えることができるようになる。また、MTDLPの各シートがなぜあの構造なのかが理解できる。



臨床歴

- 一般財団法人 太田綜合病院附属 太田熱海病院
- 一般財団法人 太田綜合病院附属 介護老人保健施設桔梗
- 医療法人生愛会 ナーシングケアセンター
- 台東区松が谷福祉会館障害者デイサービスセンター

所属学会等

- 日本作業療法士協会
- 宮城県作業療法士会
- 福島県作業療法士会
- 日本臨床作業療法学会(理事)
- 日本作業行動学会
- TEA と質的研究学会
- 日本ヘルスコミュニケーション学会
- 日本ヘルスリテラシー学会
- 日本メディカルコミュニケーション学会
- 日本医療通訳学会
- 日本ヘルスマーケティング学会
- 日本医学サイエンスコミュニケーション学会
- 日本医療コミュニケーション学会

競争的資金

- 科学研究費助成事業(基盤研究B)分担
「リハビリテーションにおける活動と参加レベルの行動変容を促す目標設定アプリの開発」
- 科学研究費助成事業(基盤研究C)代表
「訪問リハにおける利用者の活動・参加を促進する目標設定プロセスの理論化と実証研究」

リーダー養成研修会企画

九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！ ～新しいステージに向けて～

○これまでの経緯

九州作業療法士会会長会は、九州の県士会会員の資質向上を図ることを目的として、学会や研修会などの企画運営を行っています。

そのひとつであるリーダー養成研修会は2008年度より、コーチングスキルを高める研修からスタートし、大規模災害支援など、その時のニーズに合わせたテーマを取り入れた内容で、県士会や職場組織をリードする人材養成に取り組んで来ました。

2019年度からは、例年、年度後半(秋頃)行っていた研修会に加え、リーダー養成の核として「学会参加者を増やす」「市町村ごとに窓口となれる人材の育成」「県士会活動に参加してくれる人材の発掘」という3つのテーマを掘り下げ、各県士会ごとの取組みを報告するという形で研修会を開催してきました。

また、この3つのテーマを3年継続して取り組み、成果を報告することで、参加者の組織運営に関する意識を高めること、他の県士会委員とのつながりの創生を大きな目標としました。

2021年度からは、九州作業療法学会でも報告会を行い、2022年6月に開催された「九州作業療法学会2022in佐賀」での報告会をもって、一応の区切りとなりました。

○これからの取組み

佐賀学会の終了後、企画委員会では、これまでの取り組み同様に、年に1回の研修会開催と、単年で終わる企画ではなく、継続して取り組む事が出来る企画を行い、複数年かけてリーダーになるべく人材を育成していくことを行う事になりました。

そこで、2022年度の研修会では、より広い会員に向けて「リーダー像」を考えてもらう機会にしたいというコンセプトのもと、「リアルなリーダーシップ」を発揮している方たちにお話をさせていただく内容としました。

メインの講演では、株式会社ケアウィル代表取締役の笈沼清紀様にお話を頂き、その後にリーダー養成研修担当の熊本、沖縄、宮崎県士会会長が、それぞれのリーダー像を語る、という企画としました。当日時間調整の必要な状況が生じたため、メインの講義のみの開催となり、士会長の発表は別の機会で行うこととなりました。

また、企画として、これまで行ってきた「共通のテーマを掲げて、継続して取り組み、結果・成果を報告する」という企画については、以下のような枠組みで取り組んでいくこととなりました。

- ①これまで取り組んできた3つのテーマのうち、一つは継続して取り組む。
- ②各県3つのテーマに取り組む(新しいテーマは各士会独自のテーマでもよい)。
- ③取り組みの成果について、九州作業療法学会で報告する。
- ④取り組む期間は2025年度までの3年間とする。

2023年度後半に開催予定の研修会については、前回の講演が大変好評だったこともあり、講師を招いての聴講形式にしてはどうかという提案が出ております。昨年度までのような、3テーマに対する取り組みの報告会という方向性もあり、現時点では確定できておりません。詳しい内容が決まってから、改めてご報告いたしますので、皆様楽しみにしておいてください。

○鹿児島学会でのリーダー養成研修会について

今学会では、二つの企画を柱として開催いたします。

一点は、昨年度保留となった熊本・沖縄・宮崎の県士会長から「リーダー像」について、それぞれの考えをお話しいたします。

もう一点は、先述しました新しい3つのテーマの内容について、各県士会の代表者からご報告いただきます。どのような内容で今後3年間取り組んでいくのか、それぞれの県士会の特色が活かされる取り組みがお聞きできるのを、今から楽しみにしております。以下に研修会のタイムスケジュールを明記しました。

- 13:00 開会挨拶・企画説明
- 13:05 県士会長が語る「リーダー像」
- 13:30 各県士会からのテーマ報告
- 14:10 意見交換
- 14:25 閉会挨拶

○さいごに

皆さんにとって「リーダー養成」という言葉はどんなイメージでしょうか？とっつきにくい？堅い？それとも何か仕事を任せられそうで面倒くさいイメージでしょうか？確かにそういう側面もあると思います。ただ、皆さんそれぞれに経験年数を重ねていく中で（役割の大小はあるかもしれませんが）、必ず組織のリーダー的役割を担う時があると思います。そんな時に慌てずに対処できる、あるいは積極的に動くことができる、楽しく役割を果たすことができる、そういったものを皆さんと一緒に創り上げていけるような研修会にしていきたいと、企画委員一同考えています。このリーダー養成研修会にご参加いただき、感じたものをアンケートなどでリアクションしていただくと嬉しいです！よろしくお願ひ致します。

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for writing.

一般演題 プログラム

一般演題

優秀演題発表 7月9日(日) 10:00～11:20

口述発表会場1(大研修室3)

座長：四元 祐子(鹿児島医療技術専門学校)

- SS-1** ICTを活用した遠隔見守りシステムによる
在宅高齢者の自立支援と介護者の業務最適化への取り組み
藤田 賢太郎 学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校
- SS-2** 介護保険関連施設従事者を対象とした介護倫理に関する研究
西 秀崇 医療法人 天心堂 志田病院
- SS-3** 初期認知症者に対するカウンセリング介入
岩切 良太 日南市立中部病院 リハビリテーションセンター
- SS-4** 選択的頸部郭清術後の副神経麻痺による上肢機能障害と日常生活動作との関連性
與谷 和真 琉球大学病院 医療技術部 リハビリテーション部門
- SS-5** 夫の逝去で落胆していたが MTDLP を通して活力を取り戻し、
自宅生活と稼業の手伝いを再開できた事例
佐藤 友美 JCHO 湯布院病院
- SS-6** 脳卒中後うつ患者に対し、意味ある作業を介入した事例
一回復期リハビリテーション病棟での関わりー
桑原 由 医療法人相生会 にしくまもと病院
- SS-7** 発達障害領域での地域支援体制の充実への取り組みについて
～長崎県作業療法士会特設委員会の活動より～
原田 洋平 長崎県作業療法士会
長崎こども・女性・障害者支援センター
- SS-8** 急性期病棟における病棟専従作業療法士の配置
武谷 秀一 社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院

口述発表1 7月8日(土) 11:10～12:10

口述発表会場1(大研修室3)

[脳血管疾患等①]

座長：秦 陽一(青雲会病院)

- O-1** 自尊感情が不足した多発神経鞘腫患者
～物語的リーズニングを基に本人の生きがいに焦点を当てた作業療法の介入～
松石 健一郎 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院
- O-2** 「できるようにになりたい」を最大限に活かす
～左麻痺の美容師に対する就労支援～
馬場 貴士 独立行政法人 労働者健康安全機構 長崎労災病院

- O-3** 記憶障害が残存した症例に対する復職支援
中屋 公汰 独立行政法人 労働者健康安全機構 長崎労災病院
- O-4** 当院における自動車運転再開に向けた神経心理学検査の検討について
吹上 崇 藤元メディカルシステム 藤元総合病院
- O-5** 当院回復期リハビリテーション病棟スタッフへのポジショニングの意識調査
～ポジショニングの統一を目指して～
辻 真奈美 医療法人社団東洋会 池田病院
- O-6** 高齢者の T 字杖歩行獲得に関する要因の検証
～ HDS-R と Kohs Block Design Test に着目した介入とカットオフ値の算出～
板井 幸太 学校法人 藤川学園 福岡リハビリテーション専門学校

口述発表2 7月8日(土) 11:10～12:10

口述発表会場2(大研修室4)

[地域]

座長：池田 真一(鹿児島第一医療リハビリ専門学校)

- O-7** 著しく体重減少した脊髄小脳変性症患者へのアプローチについて
～本人の能力に適した食事動作を在宅でも継続するために～
志柿 臣哉 社会医療法人寿量会 熊本機能病院
- O-8** 地域在住高齢者における主観的な睡眠の質と重要な活動の満足度との関連
赤崎 義彦 垂水市立医療センター 垂水中央病院
鹿児島大学大学院 保健学研究科 博士後期課程
- O-9** ICF における「参加」に着目した関わりにより
レビー小体型認知症の進行を緩やかに出来た症例
庄野 里沙 ケアサポートメロン DEKIRU
- O-10** 行政と連携したメンタルヘルス普及啓発の実践
～社会教育施設でのメンタルヘルス講座～
岡崎 史裕 私の街のメンタルヘルス研究会
医療法人 信和会 城ヶ崎病院
- O-11** アルコール依存症と共に生きる
～就労継続支援 b 型事業所より～
菊池 由加理 社会福祉法人 つわ蒔会 就労サポート事業所 ミチテル
- O-12** 「介護予防・日常生活支援総合事業」の C 型の訪問を利用した 1 例
城戸 よしみ 医療法人和仁会 和仁会病院

[援助機器]

座長：爲近 岳夫(熊本保健科学大学)

- O-13** 目標達成を目的とした遠隔リハビリテーションを実践した
大腿骨転子間骨折術後の一症例
中村 次郎 社会医療法人 長崎記念病院
- O-14** 在宅高齢者の見守りと健康管理のためのビデオ通話システム「ami」の開発
吉満 孝二 鹿児島大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻
- O-15** 麻痺側手に機能的スプリントを着用することで出来る作業の拡大を認めた一症例
藤原 謙吾 一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院
- O-16** 症例自身のニーズに合わせた自助具の考案
～ADLが自立し母親としての役割を獲得できた症例～
甲斐 鈴望 社会医療法人寿量会 熊本機能病院
- O-17** ビデオ通話システム「ami」を用いた
在宅高齢者の見守り・コミュニケーション支援の一例
平嶋 佑太郎 医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

[脳血管疾患等②]

座長：豊栄 峻(鹿児島大学病院)

- O-18** バランス能力向上重視のリハビリテーション治療を行なった右視床出血の一例
三宅 陽平 社会医療法人 白十字会 耀光リハビリテーション病院
- O-19** 回復期の脳卒中重度から軽度上肢麻痺に対する
上肢リハビリ装置の実行可能性と有用性の検討
藤本 皓也 医療法人玉昌会 加治木温泉病院
鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 リハビリテーション医学
- O-20** ボツリヌス療法における当院リハビリテーション科の取り組み
坂本 祐士 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院
- O-21** 痙縮に対するボツリヌス治療チームにおける作業療法士の関わり
兵道 哲彦 飯塚病院
- O-22** 摘み・握りを必要とするリーチ動作時の肩甲帯周囲筋の筋活動の検討
豊田 正成 医療法人社団高邦会 柳川リハビリテーション病院
- O-23** ADL・IADL介入を通してセルフアウェアネスの改善を図ったことで
主婦として家事が担えるようになった半側空間無視患者一例
富永 麗華 医療法人慈圭会 八反丸リハビリテーション病院

[高齢期]

座長：川井田 翔悟(谷山病院)

- O-24** ADL低下を来すことなく治癒を成した両踵褥瘡を有する1例を通して
一褥瘡ゼロを目指し、OTを中核に取り組んだ対策プロセス—
川田 隆士 介護老人保健施設 サンファミリー
- O-25** 回復期リハビリテーション病棟入棟患者における
高齢化によるADL帰結の関連と栄養状態の実態
湯永 正敏 医療法人クオラ クオラリハビリテーション病院
- O-26** 睡眠障害を伴った認知症高齢者への対応
～眠りスキャンを用いて～
中原 広司 介護老人保健施設 アンダンテ伊集院
- O-27** COVID-19禍における回復期リハ病棟自宅退院患者の退院後ADLの変化
森山 悠平 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院
- O-28** 作業遂行の基盤である「人—環境—作業」への包括的支援によって
作業機能障害が改善した事例
舞田 大輔 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院
- O-29** 精神科デイケア高齢者向け転倒予防の取り組み
～転倒予防運動の効果について～
竹谷 健太郎 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院

[MTDLP]

座長：黒木 辰朗(神村学園専修学校)

- O-30** 散歩を目標に更衣動作の介助量軽減につながった事例
中村 明治 社会医療法人親仁会 みさき病院
- O-31** つなぐ想いと明日への挑戦
—突然の怪我により娘の卒業式に参加ができなかった頸髄損傷者に対するMTDLP—
塚本 倫央 独立行政法人 労働者健康安全機構 長崎労災病院
- O-32** 自己効力感の向上により行動変容を認めた事例
～役割の再獲得に着目して～
浦上 菜々瀬 医療法人清和会 老人保健施設 シルバーピア水前寺
- O-33** 生活行為向上マネジメントを活用し
趣味である陶芸を通して活動意欲の向上に繋がった事例
中西 撤矢 医療法人松城会 隼人温泉病院
- O-34** 認知症高齢者に対してMTDLPを用い、
調理を通じて妻としての役割再獲得に繋がった事例
大津 泰寛 医療法人松城会 隼人温泉病院

[運動器疾患・認知障害(高次脳機能障害を含む)] 座長: 湯永 正敏(クオラリハビリテーション病院)

- O-35** 腱板修復術後に認知行動療法を併用した作業療法実践により不安が軽減した事例
尾崎 直哉 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院
- O-36** 急性期, 橈骨遠位端骨折術後患者の痛みの悪循環から
早期脱却に向けて認知行動療法を行った一症例
久保田 智博 独立行政法人 労働者健康安全機構 長崎労災病院
- O-37** 大腿骨近位部骨折術後患者の特徴整理
～せん妄に焦点を当てた急性期作業療法における課題の検討～
宮本 祐希 地方独立行政法人 長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター
- O-38** IADL 評価の認知症鑑別検査としての有用性と課題
重藤 旭 医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院
- O-39** 当院における認知症疑いのある運動器疾患患者の転帰先要因について
山川 一晃 医療法人おもと会 大浜第一病院
- O-40** A-QOA の活用により意味のある活動選択が実現し活動の質が向上した事例
増田 達也 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院

[発達障害・教育] 座長: 内勢 美絵子(社会福祉法人光生会 都城子ども療育センターひかり園)

- O-41** 精神科受診をした不登校児のはじめの一步
～人とのつながりを拒むこどもに気づかされた作業療法の可能性～
有馬 雄太郎 医療法人敬愛会 玉里病院
- O-42** 早期支援をつなぐ
～医療と福祉の共同事業モデル～
渡辺 貴子 公益社団法人昭和会 いまきいれ子ども発達支援センターまある
公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院
- O-43** 応用行動分析学に基づく作業療法実践により
食事動作の改善を認めた精神遅滞児の一例
小崎 由果 医療法人玉昌会 加治木温泉病院
- O-44** 当院における ICT を使用した臨床実習支援システム導入の試み
～第一報～
中野 宏治 社会医療法人 緑泉会 米盛病院
- O-45** 人間作業モデルの教育が作業療法学生に与える影響に関する文献研究
新川 正二 伊敷病院
- O-46** VR が育てる多職種連携教育に対する学生の見識の変化
四元 祐子 学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科

ポスター発表

ポスター1 7月8日(土) 11:10~12:00

ポスター会場(中研修室3)

- P-1** ADOC-H を用いることで行動変容を促すことができた
不安の強い脳卒中後上肢麻痺の事例
高良 春花 博仁会 福岡リハビリテーション病院
- P-2** 重度上肢麻痺患者に対し機能の改善に合わせた段階的な介入を行った結果
生活での麻痺手の使用が可能となった例
鳥越 彩 社会医療法人 恒心会 恒心会おぐら病院
- P-3** 回復期脳卒中患者に対し持続的低振幅電気刺激下の促通反復療法を実施し
麻痺手の機能改善を認めた一例：
シングルケースデザインによる効果検証
小川 良輔 社会医療法人三校会 宮崎病院
- P-4** 脳卒中患者の自動車運転再開における
ウinker・アクセルペダル交換を検討した症例
藤原 彰二 特定医療法人東筑会 東筑病院
- P-5** しびれ同調経皮的電気刺激を行い右手のしびれ感や感覚障害、
身体表象に改善が得られた後縦靭帯骨化症の一例
豊栄 峻 鹿児島大学病院 リハビリテーション部
鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 リハビリテーション医学
- P-6** 後期高齢者における変形性遠位橈尺関節症・伸筋腱皮下断裂の
術後ハンドセラピーの経験
有働 佑利子 地方独立行政法人 大牟田市立病院
- P-7** 新型コロナウイルス感染後にギランバレー症候群を続発した症例に対して
CBA が有効であった1例
松谷 美央 社会医療法人 青洲会 福岡青洲会病院
- P-8** 当院介護医療院における屋外園芸活動の持続可能性を模索して
鳥居 冬通 医療法人博悠会 博悠会温泉病院
- P-9** COVID-19 拡大前後の地域在住高齢者における大切な活動の特徴および
満足度の検討
下木原 俊 鹿児島大学大学院 保健学研究科 博士後期課程
日本学術振興会 特別研究員(DC2)
- P-10** 布団の重みを除去する事で、足関節の可動域が改善した症例についての報告
永田 真人 医療法人 福岡桜十字 花畑病院
- P-11** 重度認知症の母が住み慣れた家で独居生活を送るための防犯カメラの活用
～家族の介護負担軽減と介護者側の感情マネジメント効果～
末廣 昌平 鹿児島県立始良病院

- P-12** 『家族の為に働きたい』を実現する生活行為によって
前向きな生活を取り戻しつつある当施設利用者の一例
内野 茜 社会福祉法人佐世保白寿会 介護老人保健施設 さざ・煌きの里
- P-13** MTDLP の活用が家族と本人の自己効力感に変化をもたらした一例
～パーキンソン病におけるバランス機能に着目して～
自見 美菜 医療法人杏林会 村上記念病院
- P-14** 実態調査から見えた建設業労働者の痛みと今後の課題
塩貝 勇太 千鳥橋病院附属 粕屋診療所
- P-15** 橈骨遠位端骨折術後患者のホームエクササイズ用掌背屈板の考案
内野 保則 医療法人心々和会 佐世保国際通り病院
- P-16** 訪問リハビリテーションで鹿児島市営住宅の環境調整に建築素材と市販品を用い、
創意工夫から得た整備支援の一例と課題
寺園 光弘 医療法人日章会 南鹿児島さくら病院
- P-17** 回復期リハビリテーション病棟でのガーデンセラピーと認知機能の関連について
当院での取り組みを交えて
角田 悠貴 医療法人 博光会 御幸病院
- P-18** 法人グループ内施設間の特色を活かした人材育成システムについて
～職員ラダーレベルの標準化を目指して～
峰岡 貴代美 社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院
- P-19** 宮崎県作業療法士会学術部の取り組み
～研修会運営と広報活動について～
郡 健太 一般社団法人 宮崎県作業療法士会 学術部
- P-20** 当院における職員の勤労者予防医療への取り組み
田崎 あおい 医療法人心々和会 佐世保国際通り病院
- P-21** 新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大に伴う学生のメンタルヘルスへの影響
渡邊 正之 学校法人 玉木学園 長崎医療技術専門学校
- P-22** オンラインセミナーを使用したリハビリテーション部内研修の取り組み報告
有村 智美 医療法人日章会 南鹿児島さくら病院

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for writing or drawing.

九州作業療法学会 組織図

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
三 役	学 会 長	吉満 孝二	鹿児島大学 医学部 保健学科
	副 学 会 長	竹田 寛	自宅会員
	副 学 会 長	堀木 周作	加世田病院
	副 学 会 長	西 綾	株式会社 輝く羽
	準備委員長	藤田 賢太郎	鹿児島医療技術専門学校
学 術 局	学 術 局 長	柳田 信彦	鹿児島大学 医学部 保健学科
	部 員	先成 聖	やまびこ医療福祉センター
	企 画 部	濱添 信人	種子島医療センター
	査 読 部	持永 博幸	川内市医師会立市民病院
	部 員	平嶺 真吾	介護老人保健施設 さくらんぼ
	編 集 部	池田 由里子	鹿児島大学 医学部 保健学科
	部 員	三堂 明日香	菊野病院
		濱添 亜里紗	菊野病院
		勝田 直起子	菊野病院
運 営 局	運 営 局 長	黒木 貴博	笹貫訪問看護ステーション 愛の街
	受付責任者	住吉 賢一	医療法人青仁会 池田病院
	受付サブ責任者	東 勝太	三愛病院
		窪 昌和	恒心会おぐら病院
	本部責任者	植村 健一	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
	本部サブ責任者	園屋 和之	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
		橋口 信洋	鹿児島第一医療リハビリ専門学校
	会場責任者	日高 俊和	神村学園専修学校
	会場サブ責任者	湯脇 稔	株式会社 カクイックスウイング
		肝付 宏人	みなと病院
後谷 直樹		クオラリハビリテーション病院	
宇都 未佑		神村学園専修学校	
広 報 局	広 報 局 長	福永 一喜	株式会社 イロドリ
	渉 外 部	溝口 諒	株式会社 キュアコネクト
	HP/SNS部	坂下 寛志	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
	部 員	松尾 勇佑	百合砂診療所
	ポスター/チラシ部	平嶋 佑太郎	キラメキテラスヘルスケアホスピタル

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
事 務 局	事務局長	田中 有貴	大勝病院
	財 務 部	田中 有貴	大勝病院
	総 務 部	田中 有貴	大勝病院
	参加者管理部	小澤 孝典	就労支援センター ステップ
技 術 局	技術局長	酒井 宣政	種子島医療センター
	部 員	坂下 寛志	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
		向江 理志	メンタルホスピタル鹿児島
		松尾 勇佑	百合砂診療所
		田中 剛二	せいざん病院
		崎島 翔平	鹿児島徳洲会病院
		大藪 拓巳	南鹿児島さくら病院
		市來 政樹	種子島医療センター
下野 竜二	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター		

いっどマルシェ出店者一覧(順不同)

■ 屋内ブース 18店舗

サン・ヴィレッジ始良
サポートなごみ
みらいず
デイハウスふたば
就労継続支援B型ラスター NEXT
就労支援センター・七福神
就労継続支援センター らぼおる
障害者就労センター みなよし
株式会社 ラグーナ出版
敬和会(けいわ、みらい、ハーモニー)
株式会社 インビクト
社会福祉法人顕真福祉会 白藤園
いろ葉セレクト
医療法人昌成会 多機能型障害福祉サービス事業所「虹の空」
就労支援センターひすい
ORIKKA
作業療法士が贈る大切な人のための手作り工房「Ogura」
バリアフリーアクセサリ @WATAWATA

■ 屋外ブース 1店舗

ラヴニール

■ キッチンカー 5台

喫茶N°8
鹿児島からあげかぼちゃのたね
キッチンカーブース
cibo kitchen
cafe glycine

■ 共同運営

一般社団法人 かがしま障がい者共同受注センター

機器展示一覧(順不同 申し込み順)

株式会社 タイカ

株式会社 ジェイテクト

アロン化成株式会社 福岡支店

株式会社 幸和製作所

株式会社 松永製作所

AssistMotion 株式会社

株式会社 プラッツ

株式会社 モリトー 福岡営業所

株式会社 ケープ

株式会社 テクノスジャパン

九セラ株式会社

日進医療器株式会社

フランスベッド株式会社

株式会社 いうら

サン情報サービス株式会社

株式会社 バイオシルバー

パシフィックサプライ株式会社

パラマウントベッド株式会社

株式会社 ホーマーイオン研究所

ラックヘルスケア株式会社

後援団体一覧(順不同)

鹿児島県

鹿児島市

公益社団法人 鹿児島県医師会

公益社団法人 鹿児島市医師会

公益社団法人 鹿児島県歯科医師会

公益社団法人 鹿児島県看護協会

公益社団法人 鹿児島県薬剤師会

公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会

一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会

鹿児島県リハビリテーション施設協議会

鹿児島県精神科病院協会

特定非営利活動法人 鹿児島県介護支援専門員協議会

一般社団法人 鹿児島県老人福祉施設協議会

公益社団法人 鹿児島県老人保健施設協会

社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会

公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会

一般社団法人 鹿児島県介護福祉士会

鹿児島県訪問看護ステーション協議会

一般社団法人 鹿児島県精神保健福祉士協会

鹿児島市障害者基幹相談支援センター

独立行政法人 労働者健康安全機構 鹿児島産業保健総合支援センター

一般社団法人 日本福祉用具供給協会 九州・沖縄支部

公益社団法人 認知症の人と家族の会 鹿児島県支部

高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島

鹿児島県指定自動車教習所協会

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

一般社団法人 日本作業療法士協会

シルバー産業新聞社

シルバー新報((株)環境新聞社)

NHK 鹿児島放送局

MBC 南日本放送

KTS 鹿児島テレビ

KKB 鹿児島放送

KYT 鹿児島読売テレビ

ロゴ作成者



岩崎 麻里子 (*マリコ*)
(1983年～2022年)

職業：イラストレーター

骨形成不全症のため、普段は車いすを使用し生活。
就労継続支援 B 型事業所内でも活躍。



主にオリジナルイラストや雑貨、似顔絵制作し、これまでにロゴや携帯用素材、ラッピング用資材、パンフレットの挿し絵等を手掛ける。

『見た人が笑顔になるものを心掛けて制作しています。』その言葉通り、見る人を癒し惹きつけるそんな作品を作り上げてくださるマリコさんでした。

2023年九州作業療法学会 in 鹿児島ロゴ及び、鹿児島県作業療法士協会ロゴにも活用できるデザインを依頼。『人と人を結ぶ・紡ぐ』をテーマに素晴らしい作品を仕上げてくださいました。今学会への参加も楽しみにされていましたが、2022年11月に突然の訃報が届きました。生前いただいた資料を基に、ロゴ製作者として紹介させていただきます。

素晴らしいロゴを今後も大切にしていきます。出会いをありがとう…



←マリコさんの作品や今までの活動を是非 HP でご覧ください。

尊敬の念を込めて代筆させていただきました 副学会長：西 綾

編集後記

九州作業療法学会2023 in 鹿児島学会誌を皆様にお届けできることを大変嬉しく思います。また、本誌の作成ならびに学会の企画・準備に携われた皆様に心より感謝申し上げます。

九州作業療法学会はここ数年、COVID-19感染拡大の影響でオンライン開催が続いておりました。本学会でも開催方法について多くの議論が交わされましたが、運営役員一同「ぜひこの鹿児島に足を運んでいただき、膝を突き合わせた議論がしたい」「私たちの鹿児島を見て、味わって、楽しんでいただきたい」という思いがあり、対面とオンラインでのハイブリッド形式での開催とすることに帰結致しました。正直申し上げてハイブリッド開催は難易度が高く、準備・運営においても多くの労力が必要となります。しかし、COVID-19感染拡大前からオンラインでの学会・研修会を確立してきた鹿児島県作業療法士協会会員の有志達が、これまでのノウハウを大いに発揮し、ハイブリッド開催実現に弾みをつけてくれています。

さて、本学会のテーマは「未来へ～作業療法の創造と融合の可能性～」です。情報システムが目覚ましい発展とグローバル化により、ますます多様性を増す社会において、人々の生き方に焦点が当たっています。私たちは人々の多様な価値観に対応すべく、従前の概念にとらわれず、境のない知見を融合していかなければなりません。本学会では、そのヒントが随所に散りばめられていると信じています。

最後になりましたが、本学会を開催するにあたり、ご支援いただきました各団体・法人の皆様方に厚く御礼申し上げます。

VUCA・予測困難な時代と言われますが、いつの時代も作業療法は作業を通じて人が豊かに暮らすことを創造し、提案し、実践してきました。九州作業療法学会は今後も、その専門性を育みながら、九州の作業療法士が一丸となり地域社会に貢献することができる礎となっていくことを祈念致します。

九州作業療法学会2023 in 鹿児島
準備委員長 藤田 賢太郎

〈次期開催予定〉

九州作業療法学会 2024 in 大分

挑戦

～作業療法士はイノベーションを起こせるか～

会 期：2024年6月22日(土)・23日(日)

会 場：J：COM ホルトホール大分
(〒870-0839 大分市金池南1丁目5番1号)

学会長：佐藤 孝臣(株式会社ライフリー)

主 催：九州作業療法士会長会

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島

発行者：九州作業療法士会長会

事務局：一般社団法人 鹿児島県作業療法士協会
〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-13 ナポリビル4階
E-mail：kyuot2023@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



九州作業療法学会2023 in 鹿児島 事務局

一般社団法人 **鹿児島県作業療法士協会**

〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-13 ナボリビル4階

TEL/FAX: 099-225-8222

E-mail: kyuot2023@gmail.com

学会HP <https://kyuot2023.secand.net/>